

### Ⅲ 調査結果の分析 ‹‹一般区民調査››

#### <調査実施の概要>

①調査地域	江東区内全域
②調査方法 調査期間	郵送法（郵送配付一郵送・インターネット回収） 令和5年9月19日（火）～10月13日（金）
③標本数	2,100人
④有効回収数	951人
⑤有効回収率	45.3%

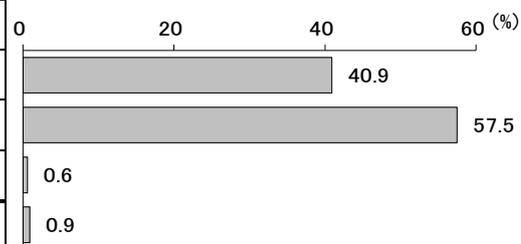


## 1 基本的な属性について

### (1) 基本的な属性

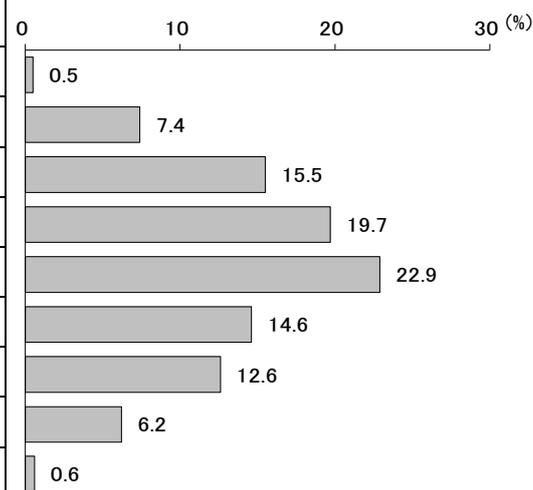
#### ① 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	389	40.9
2 女性	547	57.5
3 回答したくない (無回答)	6	0.6
	9	0.9
合 計	951	100.0



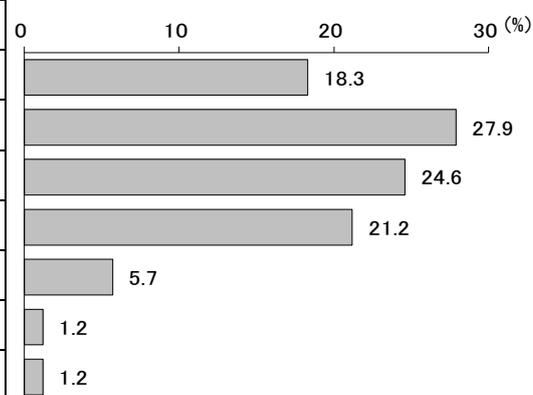
#### ② 年齢別

	基数(人)	構成比(%)
1 20歳未満	5	0.5
2 20歳代	70	7.4
3 30歳代	147	15.5
4 40歳代	187	19.7
5 50歳代	218	22.9
6 60歳代	139	14.6
7 70歳代	120	12.6
8 80歳以上	59	6.2
(無回答)	6	0.6
合 計	951	100.0

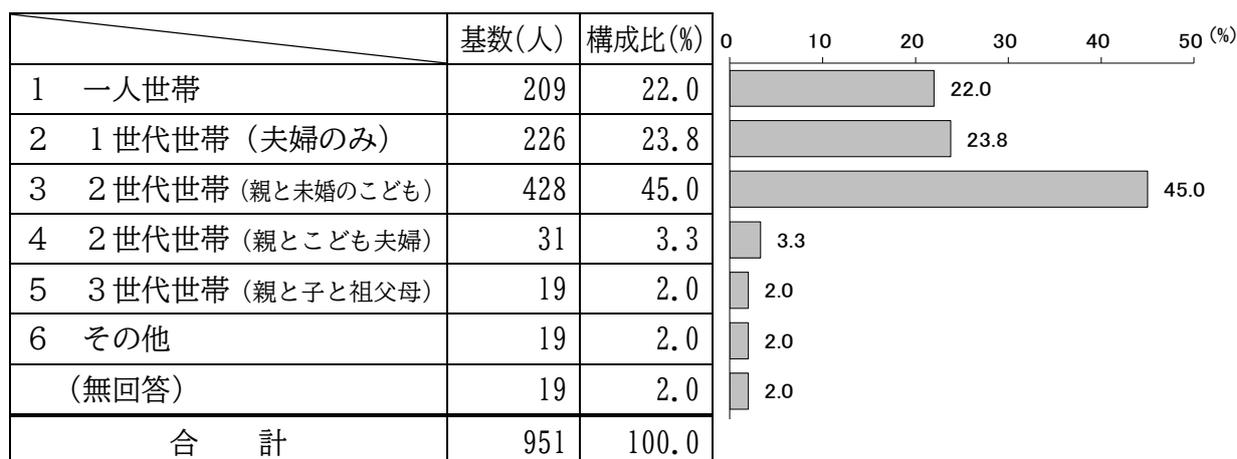


#### ③ 家族人数

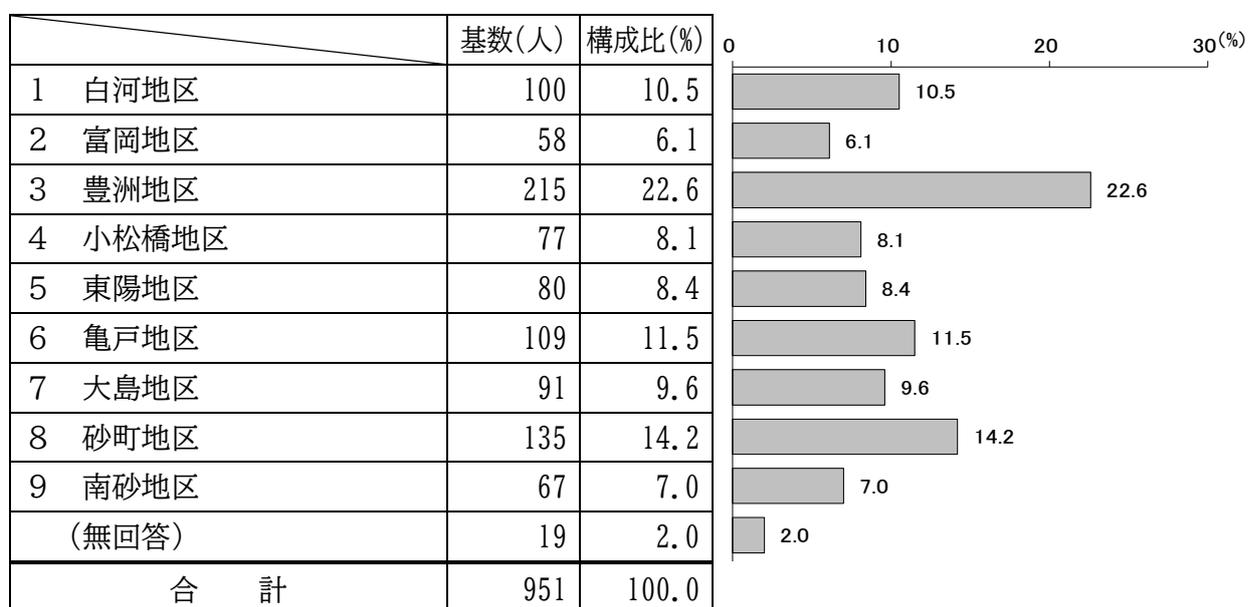
	基数(人)	構成比(%)
1 ひとり暮らし	174	18.3
2 2人	265	27.9
3 3人	234	24.6
4 4人	202	21.2
5 5人	54	5.7
6 6人以上	11	1.2
(無回答)	11	1.2
合 計	951	100.0



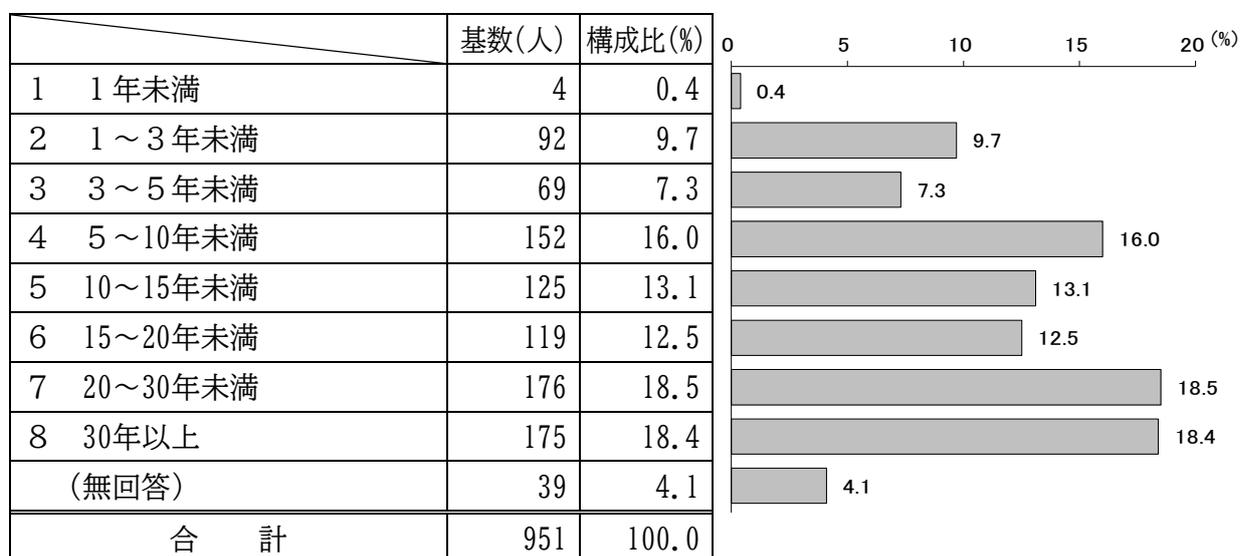
④ 家族構成



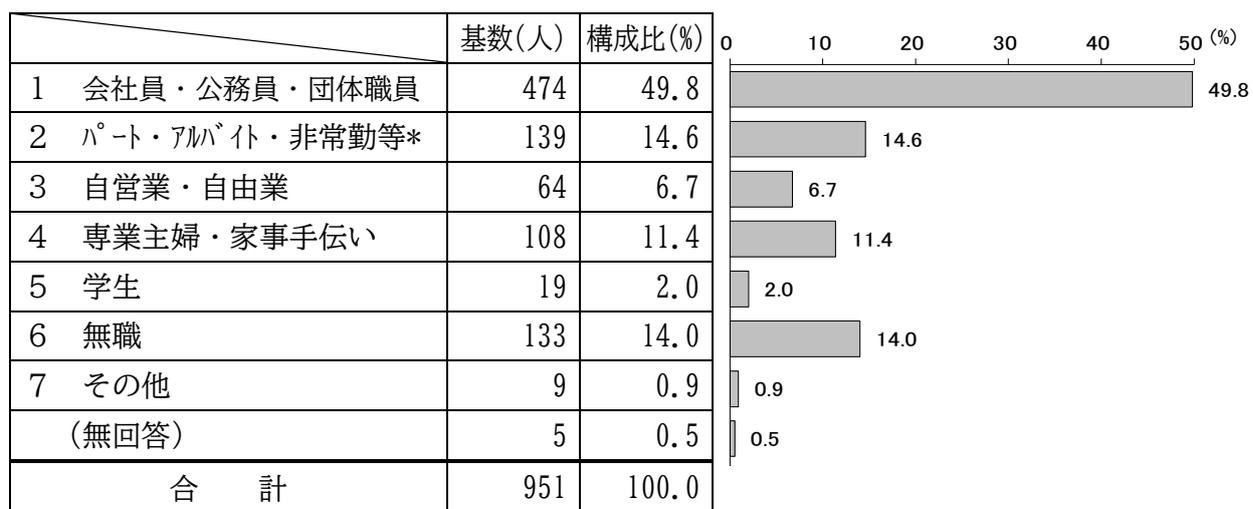
⑤ 居住地区



⑥ 居住年数



⑦ 職業



\*パート・アルバイト・非常勤・嘱託・派遣など

(2) 身長・体重

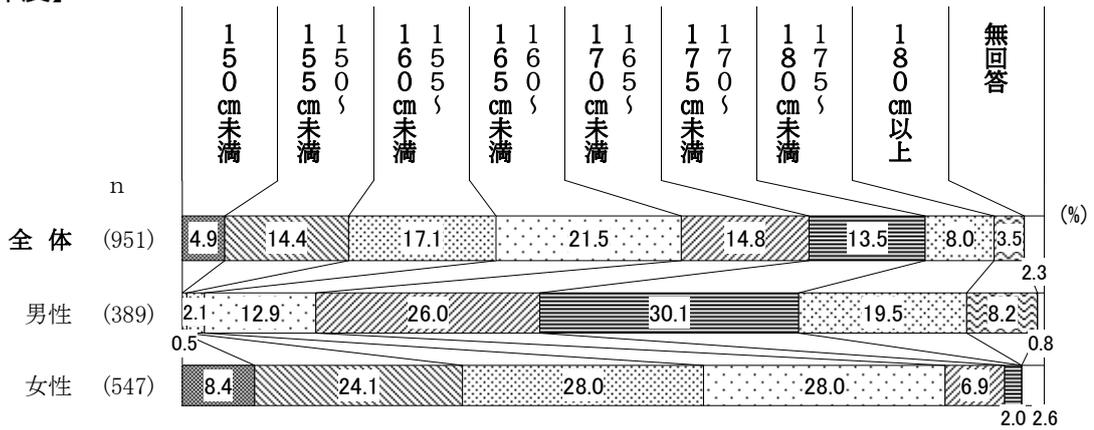
①身長

◇平均身長は162.7cm

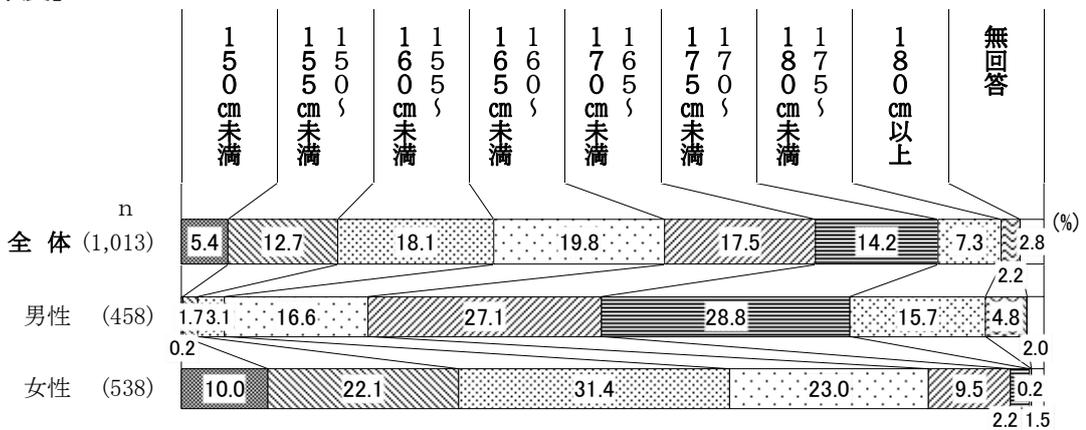
問6 あなたのおよその身長と体重を整数でご記入ください。ただし、不明の場合は結構です。

<図表Ⅲ-1-1>身長

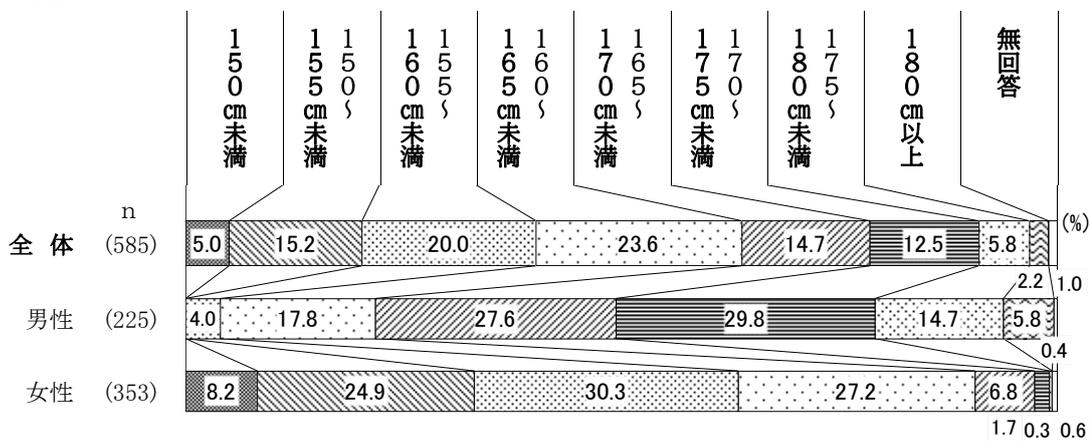
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



身長は、平均身長が162.7cmで、構成比は「160～165cm未満」(21.5%)が2割を超え、「155～160cm未満」(17.1%)が約2割となっている。

性別で見ると、男性の平均身長は170.5cmで、女性の平均身長は157.1cmである。従って、男女の身長差は13.4cmである。また、構成比で見ると、男性では、「170～175cm未満」が3割、「165～170cm未満」が2割台半ばとなっている。一方、女性では、「155～160cm未満」と「160～165cm未満」が約3割となっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、女性は「160～165cm未満」が平成29年度から5ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-1)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ-1-2>

〔平均身長〕

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<b>162.7</b>	169.6	163.0	163.3	164.7	164.4	162.9	158.6	155.6
男性	<b>170.5</b>	177.7	171.4	171.6	173.3	171.3	169.1	167.1	164.7
女性	<b>157.1</b>	157.5	157.8	158.6	159.3	158.0	156.9	153.9	149.6

※「全体」には、太字で下線を施している。

※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

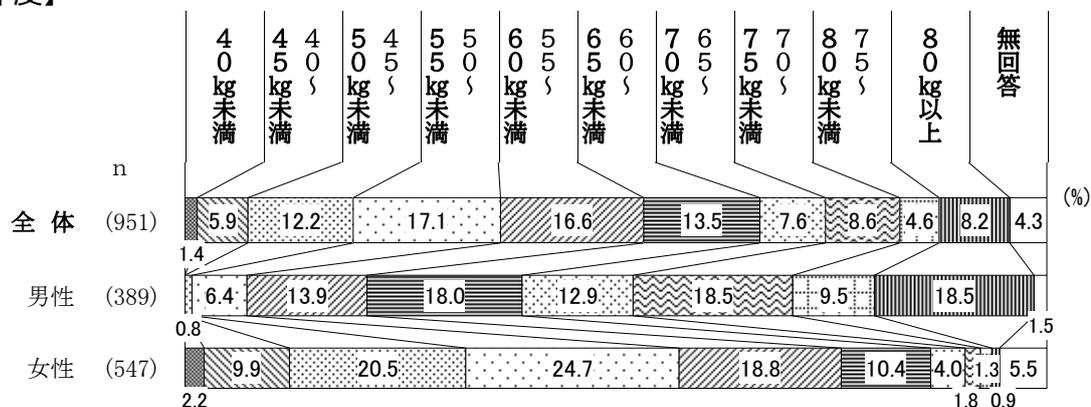
男性の平均身長は、50歳代以下では170cm台であるが、60歳代、70歳代では160cm台となっている。一方、女性の平均身長は、40歳代(159.3cm)が最も高く、最も低い80歳以上との高低差は9.7cmとなっている。(図表Ⅲ-1-2)

②体重

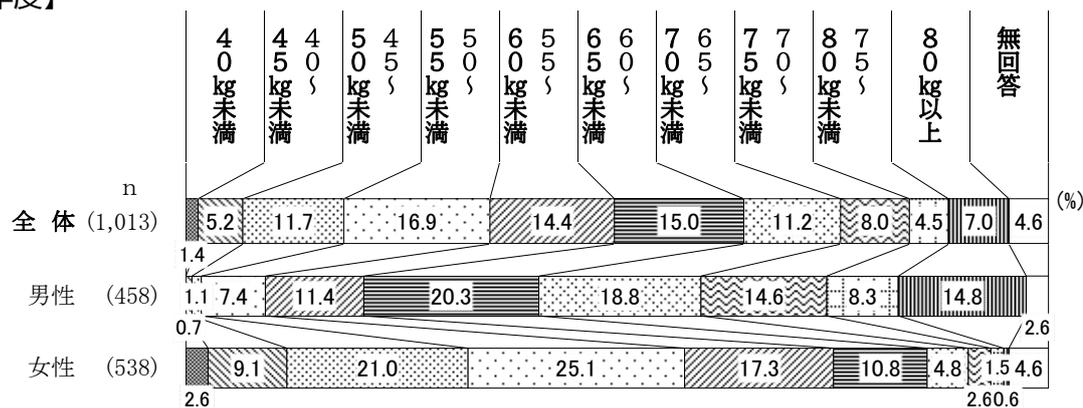
◇平均体重は60.1kg

<図表Ⅲ-1-3>体重

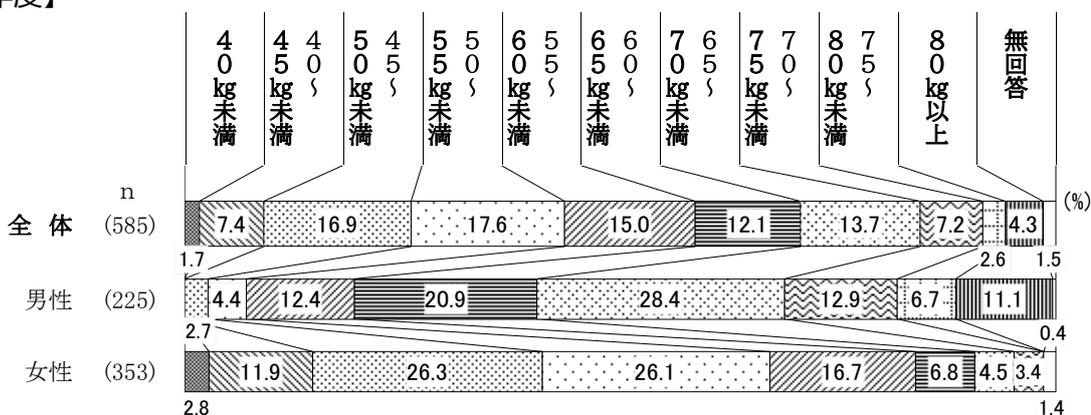
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



体重は、平均体重が60.1kgで、構成比は「50～55kg未満」(17.1%)が約2割、「55～60kg未満」(16.6%)と「60～65kg未満」(13.5%)が1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性の平均体重は69.5kgで、女性の平均体重は53.2kgである。従って、男女の差が16.3kgある。構成比で見ると、男性は「70～75kg未満」と「80kg」が約2割で最も高くなっている。一方、女性は「50～55kg未満」が2割台半ば、「45～50kg未満」が2割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「65～70kg未満」が平成25年度から6ポイント減少している。性別では、男性は「65～70kg未満」が平成25年度から29年度にかけて9ポイント、さらにそこから今回5ポイントの減少となっている。また、平成25年度から「80kg以上」が7ポイント、「70～75kg未満」が5ポイント増加している。女性は「45～50kg未満」が平成25年度から5ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-3)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ-1-4>

〔平均体重〕

	(kg)								
	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<u>60.1</u>	<u>62.4</u>	<u>57.4</u>	<u>57.9</u>	<u>62.7</u>	<u>62.3</u>	<u>61.0</u>	<u>57.0</u>	<u>56.1</u>
男性	<u>69.5</u>	72.7	67.5	68.0	75.2	70.8	68.2	65.7	62.4
女性	<u>53.2</u>	47.0	51.2	51.8	54.9	54.1	54.0	52.3	51.7

※「全体」には、太字で下線を施している。

※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

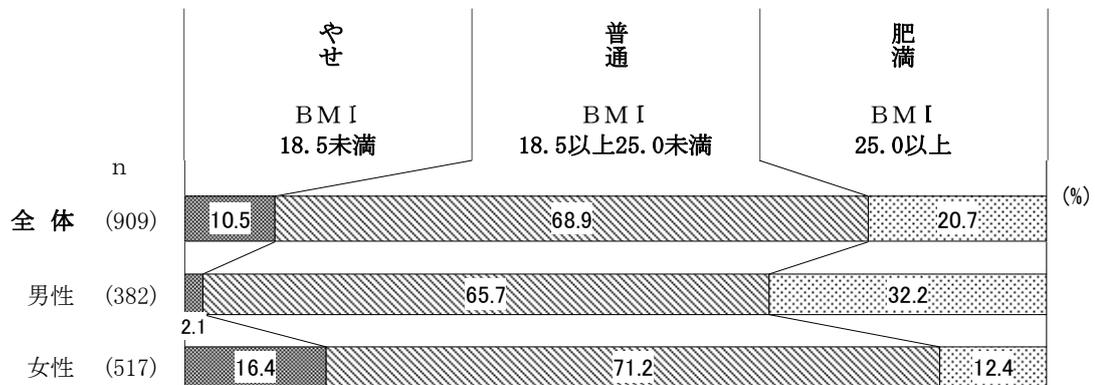
男性の平均体重は、40歳代(75.2kg)が最も重く、それ以降年齢が上がるほど減少している、最も軽い70歳代との差は9.5kgとなっている。一方、女性の平均体重は、40歳代(54.9kg)が最も重く、最も軽い80歳以上との差は3.2kgとなっている。(図表Ⅲ-1-4)

### (3) BMI

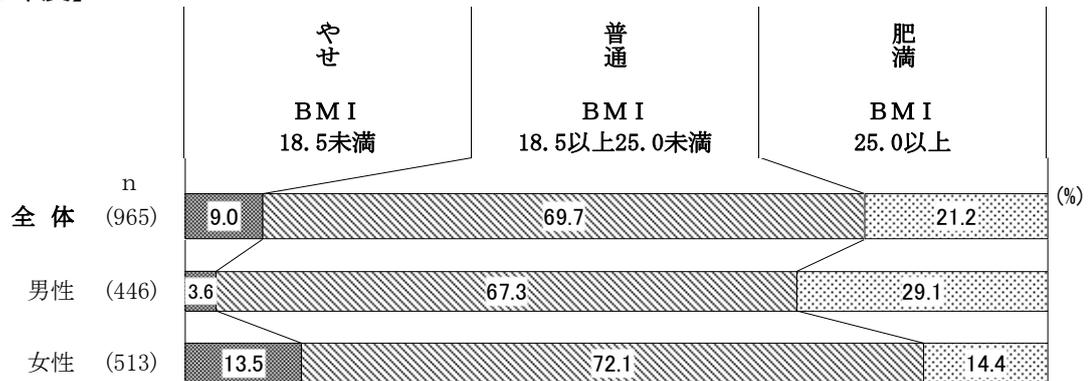
◇BMIの平均は22.5。構成比は「普通」が約7割で、「肥満」が2割

<図表Ⅲ-1-5> BMI

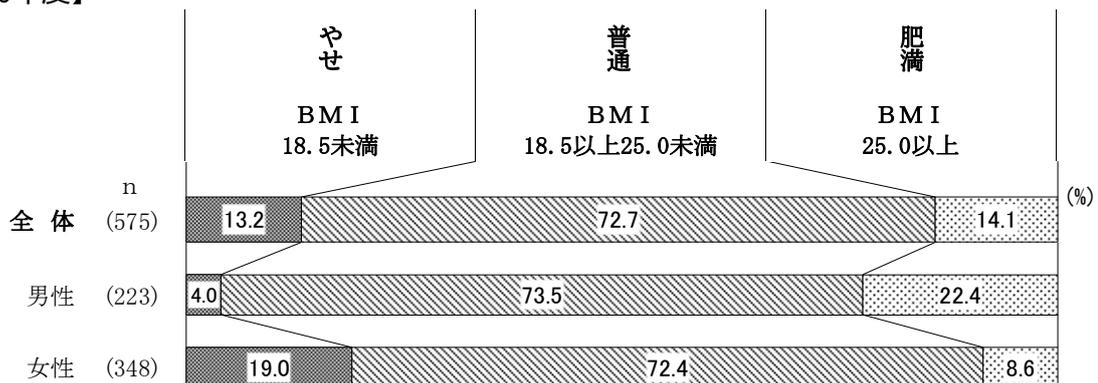
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



※BMI (Body Mass Index=体格指数)とは  
 体格の判定について広く用いられている指標で、次の式で導くことができ、「22」が標準とされている。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

また、日本肥満学会ではBMIの判定基準を、18.5未満を「やせ」、18.5以上25.0未満を「普通」、25.0以上を「肥満」と定めている。

身長と体重の結果をもとに、BMIを算出した結果、平均は22.5で、「普通：18.5以上25.0未満」（68.9%）が約7割、「肥満：25.0以上」（20.7%）が2割となっている。

性別で見ると、男性の平均は23.9で、女性の平均は21.6である。日本肥満学会の判定基準による構成比では、「普通」が男性で6割台半ば、女性で7割を超えているが、「肥満」は男性が女性を19ポイント上回り3割を超え、逆に、「やせ」は女性の方が14ポイント高く、1割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「肥満」が平成25年度から6ポイント増加している。性別では、男性は「肥満」が平成25年度から9ポイント増加している。（図表Ⅲ－1－5）

【性／年齢別】

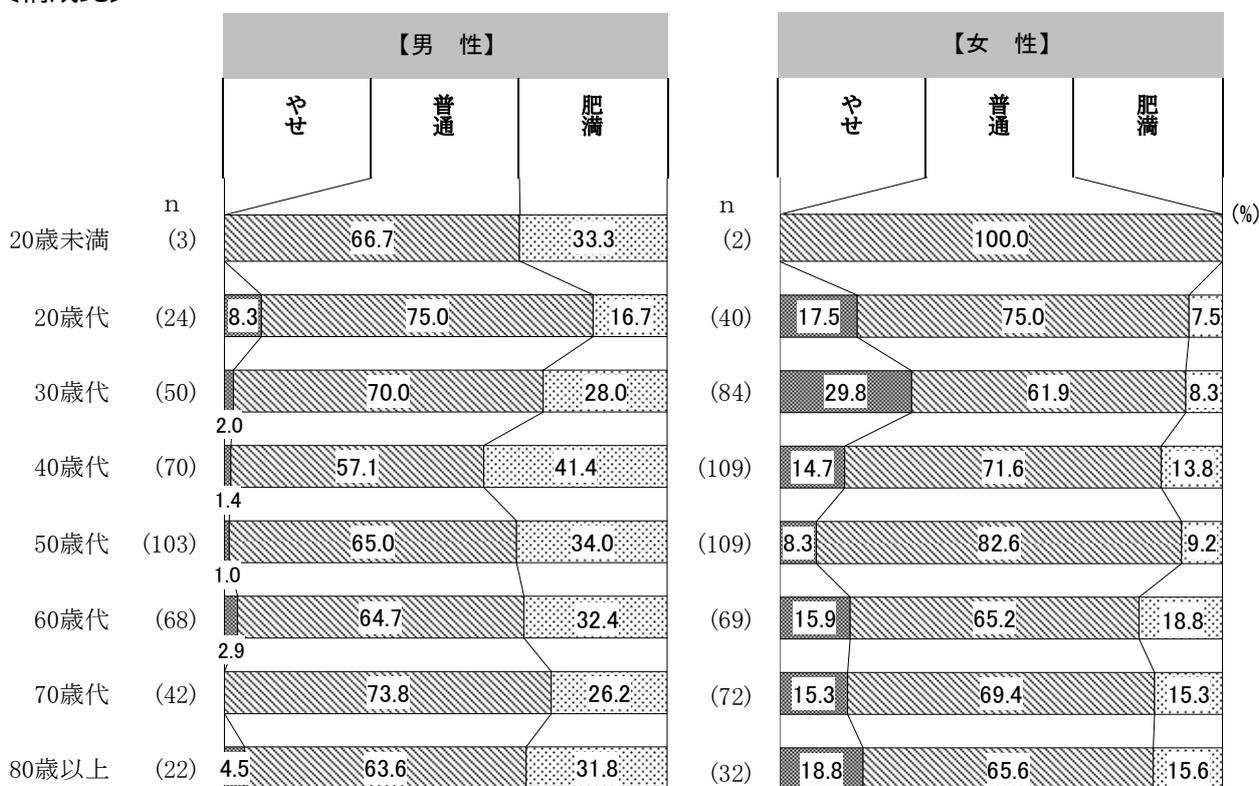
<図表Ⅲ－１－６>

〔平均BMI〕

	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
全体	<b>22.5</b>	21.3	21.5	21.5	22.9	22.8	22.9	22.6	22.9
男性	<b>23.9</b>	22.9	23.0	23.1	24.9	24.1	23.8	23.5	23.0
女性	<b>21.6</b>	19.0	20.6	20.6	21.6	21.7	22.0	22.1	22.8

※「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

平均BMIでは、男性は40歳代で24.9と最も高く、50歳代が24.1と続き、全年代で標準である「22」を上回っている。一方、女性では、80歳以上が22.8と最も高く、70歳代とともに標準の「22」を上回っている。

また、構成比では、男性は「普通」がいずれの年齢層でも高くなっており、「肥満」は40歳代で4割を超えている。一方、女性では「やせ」は30歳代で約3割と高いが、他の年齢層はおおむね1割台となっている。「普通」はいずれの層でも高くなっているが、30歳代は6割を超える程度となっている。(図表Ⅲ－１－６)

国の令和元年国民健康・栄養調査と比較すると、BMI 25に近い(24.5以上)のは、国では男性40歳代、50歳代であるが、本調査では男性40歳代のみとなっている。

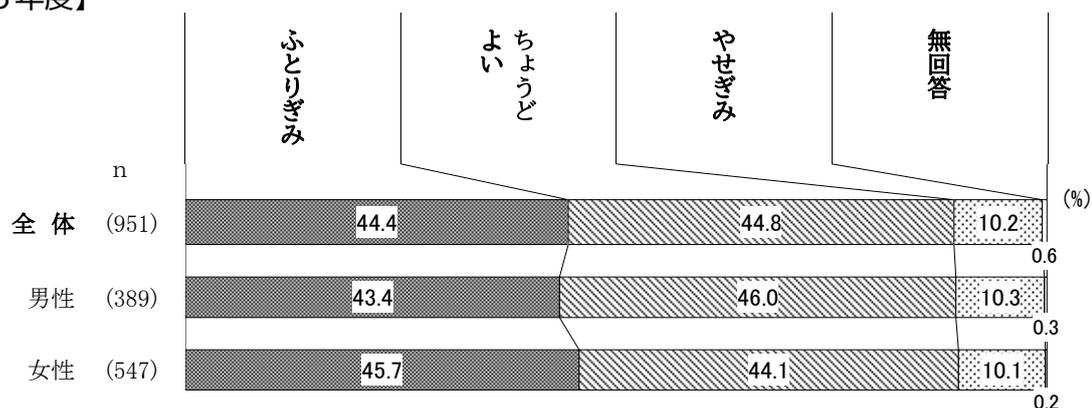
(4) 体型についての認知

◇「ふとりぎみ」が4割台半ば

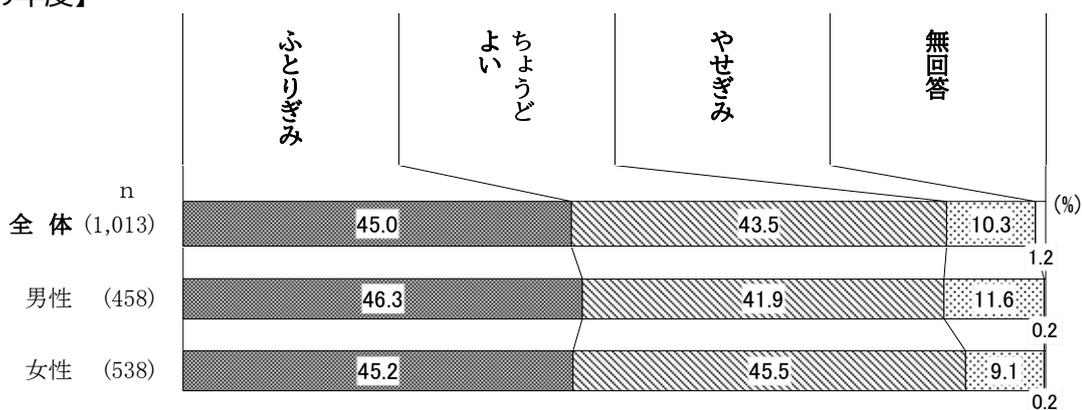
問7 あなたは、自分の体型についてどう思いますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-7> 体型についての認知

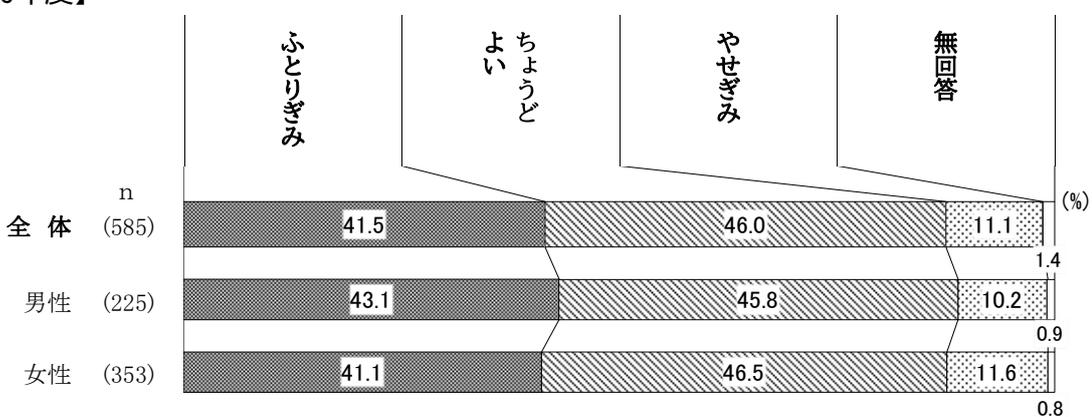
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

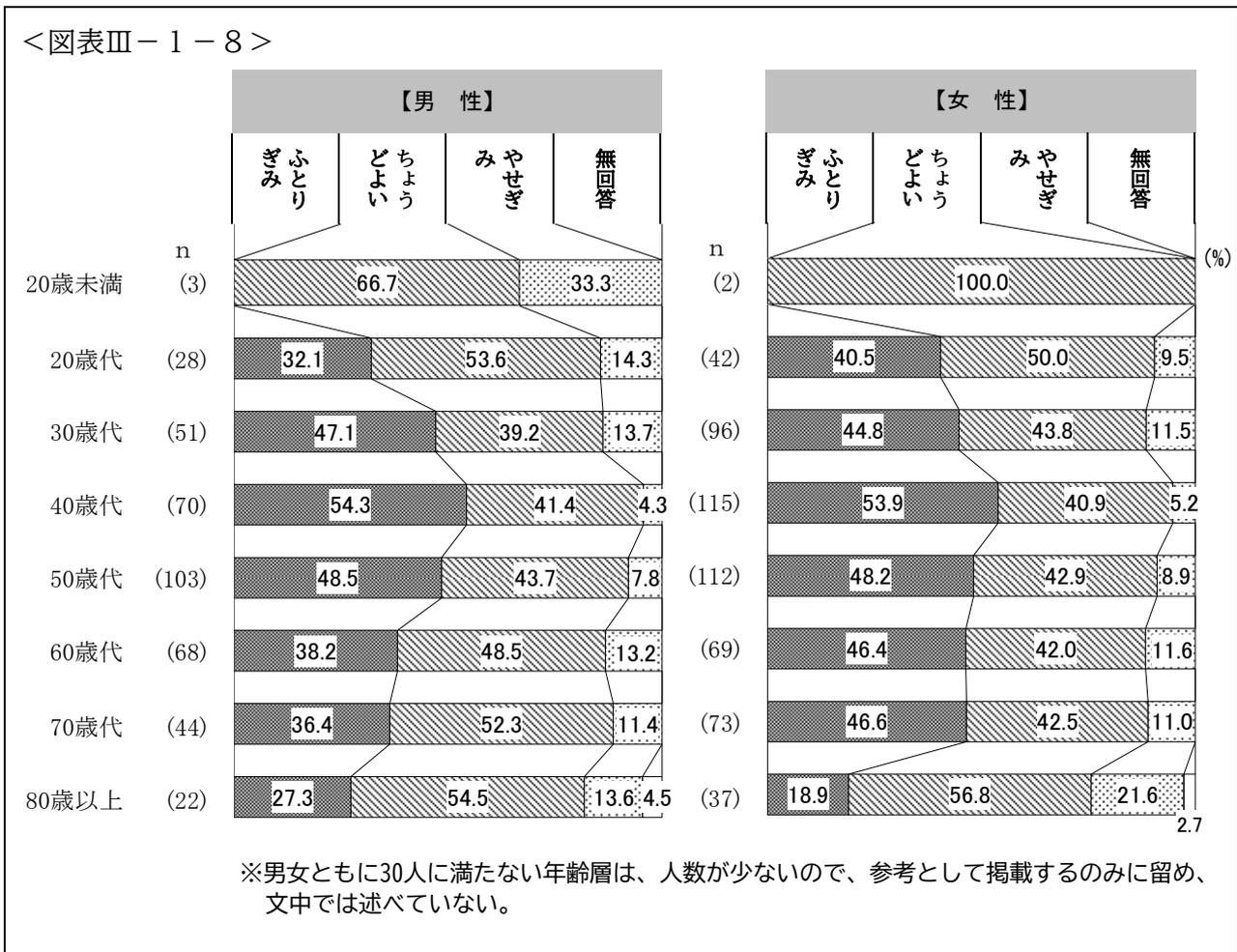


体型について聞いたところ、「ふとりぎみ」(44.4%)と「ちょうどよい」(44.8%)が4割台半ば、「やせぎみ」(10.2%)は1割となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果との比較では、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表Ⅲ-1-7)

【性／年齢別】



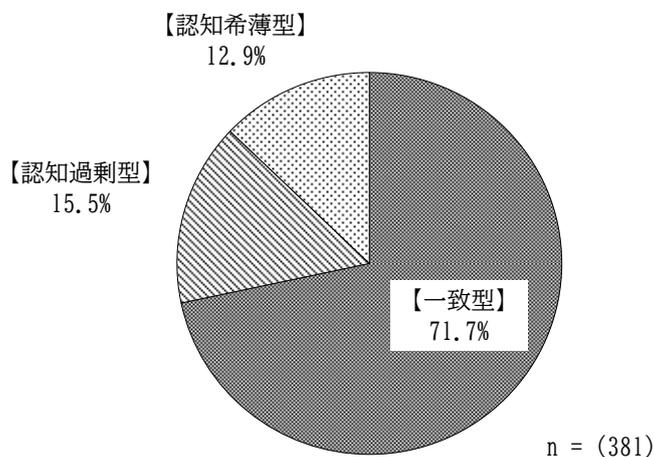
男性では「ふとりぎみ」は、40歳代で5割台半ば、30歳代、50歳代で約5割と高くなっている。「ちょうどよい」は70歳代で5割を超え、60歳代で約5割となっている。一方、女性では「ふとりぎみ」は、40歳代が5割台半ば、50歳代で約5割と高くなっている。「ちょうどよい」は、80歳以上で5割台半ば、20歳代で5割と高くなっている。(図表Ⅲ-1-8)

【男性】

<図表Ⅲ-1-9>

『BMI』 \ 『体型についての認知』		上段：人数（人） 下段：比率（%）			【認知希薄型】
		ふとりぎみ	ちょうどよい	やせぎみ	
肥満	106 86.2	16 13.0	1 0.8	49人 12.9%	
普通	58 23.1	160 63.7	32 12.7	【一致型】 273人 71.7%	
やせ	0 0.0	1 12.5	7 87.5		
【認知過剰型】 59人 15.5%					

※例えば、表中の【一致型】【認知過剰型】【認知希薄型】の、それぞれの比率を全て足し合わせたものと、右下にある比率とではやや異なるが、これは、小数点以下第2位を四捨五入しているためにおきる差である。



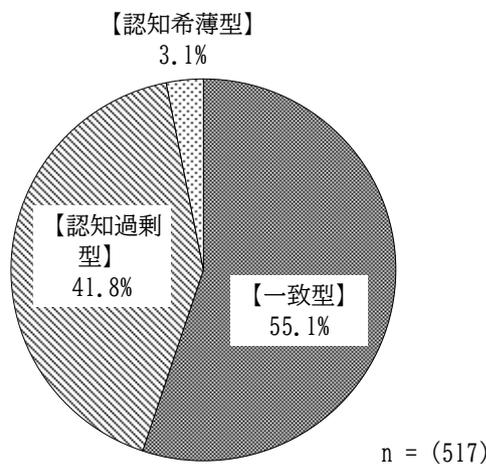
体型の認識差をみてみると、【一致型】は273人で71.7%である。そして、【認知過剰型】が59人で15.5%、【認知希薄型】は49人で12.9%となっている。つまり、7割を超える人は『BMI』と『体型の認知』の認識が一致しているが、約3割の人は『BMI』と『体型の認知』の認識が乖離していることが分かる。(図表Ⅲ-1-9)

【女性】

<図表Ⅲ-1-10>

(n=544)		上段：人数(人) 下段：比率(%)			【認知希薄型】 16人 3.1%
		ふとりぎみ	ちょうどよい	やせぎみ	
『BMI』	『体型についての認知』				
	肥満	61 95.3	3 4.7	0 0.0	
	普通	171 46.5	184 50.0	13 3.5	
やせ	3 3.5	42 49.4	40 47.1		
【認知過剰型】 216人 41.8%				【一致型】 285人 55.1%	

※例えば、表中の【一致型】【認知過剰型】【認知希薄型】の、それぞれの比率を全て足し合わせたものと、右下にある比率とではやや異なるが、これは、小数点以下第2位を四捨五入しているためにおきる差である。



体型の認識差をみてみると、【一致型】は285人で55.1%である。そして、【認知過剰型】が216人で41.8%、【認知希薄型】は16人で3.1%となっている。つまり、5割台半ばの人は『BMI』と『体型の認知』の認識が一致しているが、4割台半ばの人は『BMI』と『体型の認知』の認識が乖離していることが分かる。(図表Ⅲ-1-10)

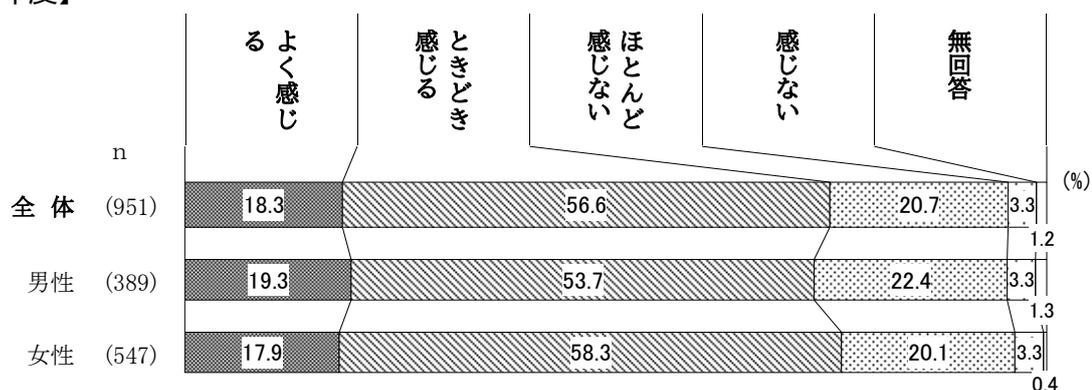
(5) 健康への不安感

◇《不安を感じる》は7割台半ば。一方、《不安を感じない》は2割台半ば

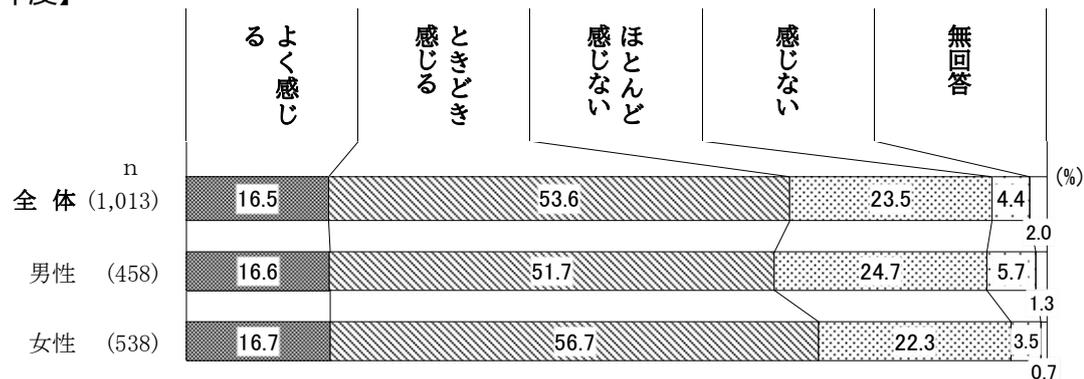
問8-1 あなたは、自分の健康に不安を感じることはありますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-11>健康への不安感

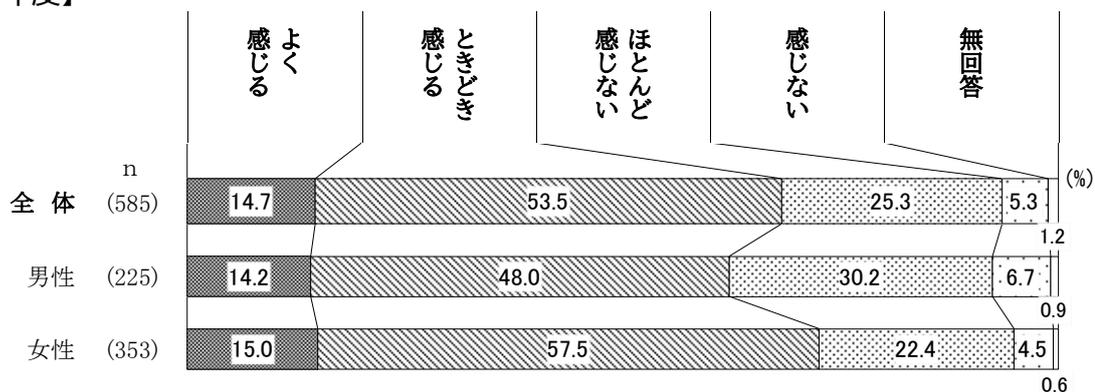
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

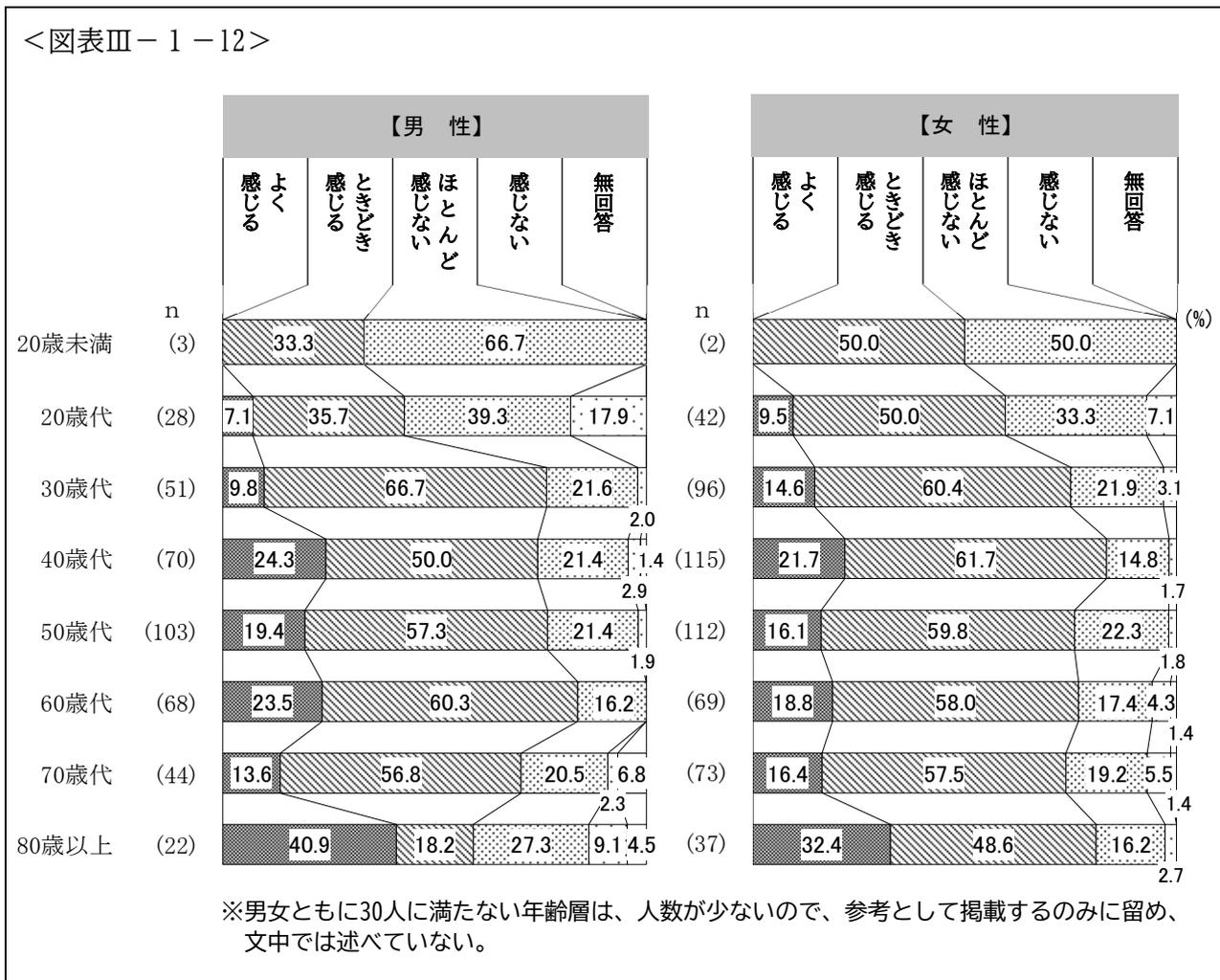


健康への不安感を聞いたところ、「よく感じる」(18.3%)が約2割、「ときどき感じる」(56.6%)が5割台半ばで、これらを合わせると、《不安を感じる》(74.9%)が7割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じない」(20.7%)と「感じない」(3.3%)を合わせた《不安を感じない》(24.0%)は2割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

過去の調査結果と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男性は平成25年度から《不安を感じる》が10ポイント増加し、《不安を感じない》が11ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-11)

【性／年齢別】



男性では《不安を感じる》は60歳代で8割台半ばと最も高く、それ以外でも7割台となっている。一方、女性では《不安を感じる》は40歳代で8割台半ばと最も高く、80歳以上でも8割を超えている。(図表Ⅲ-1-12)

(6) 不安を感じること

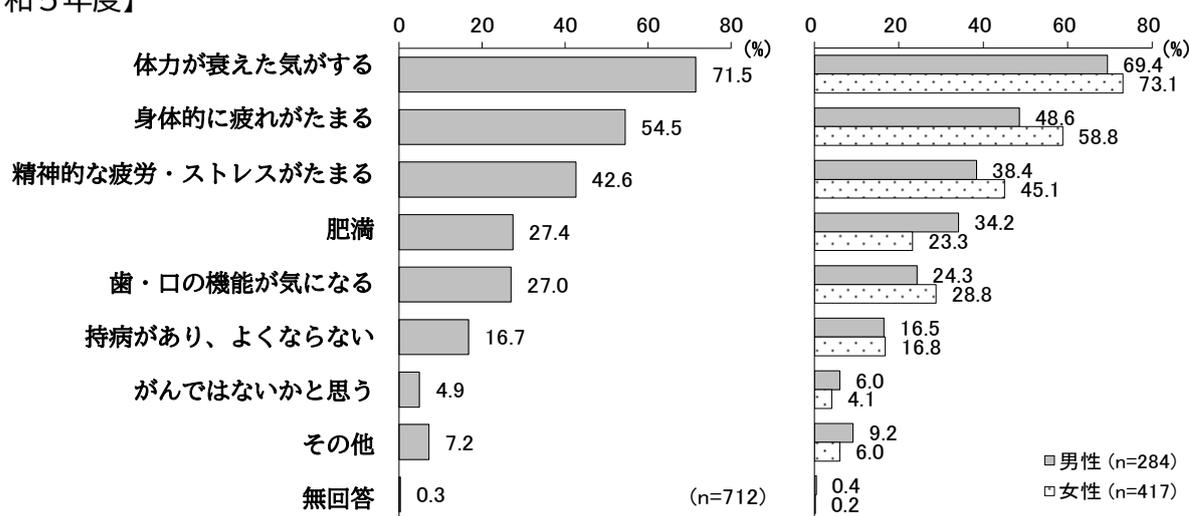
◇「体力が衰えた気がする」が7割を超えて最も高い

(問8-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

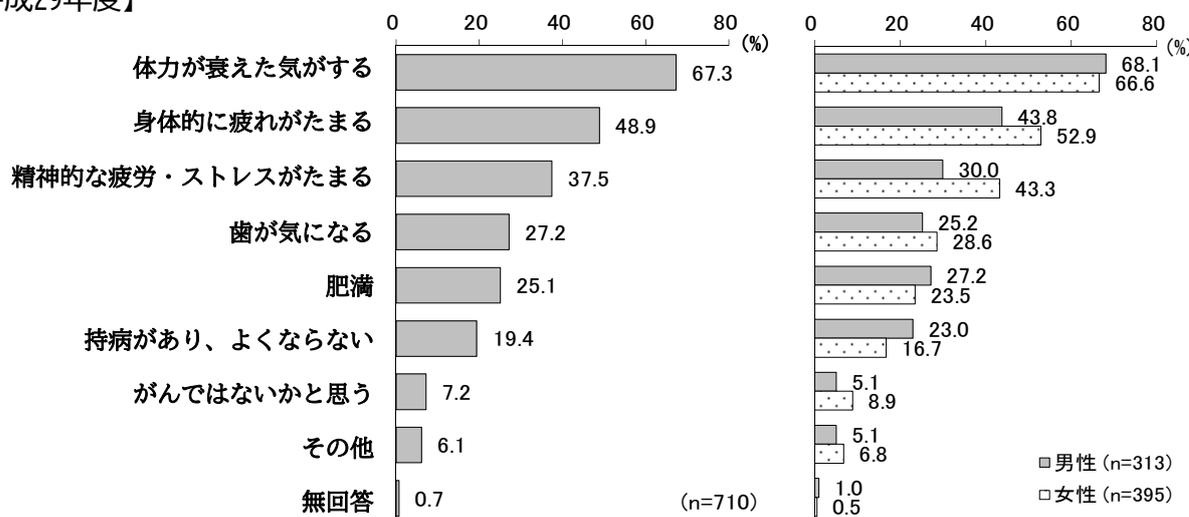
問8-2 どんなことに不安を感じますか。(○はいくつでも)

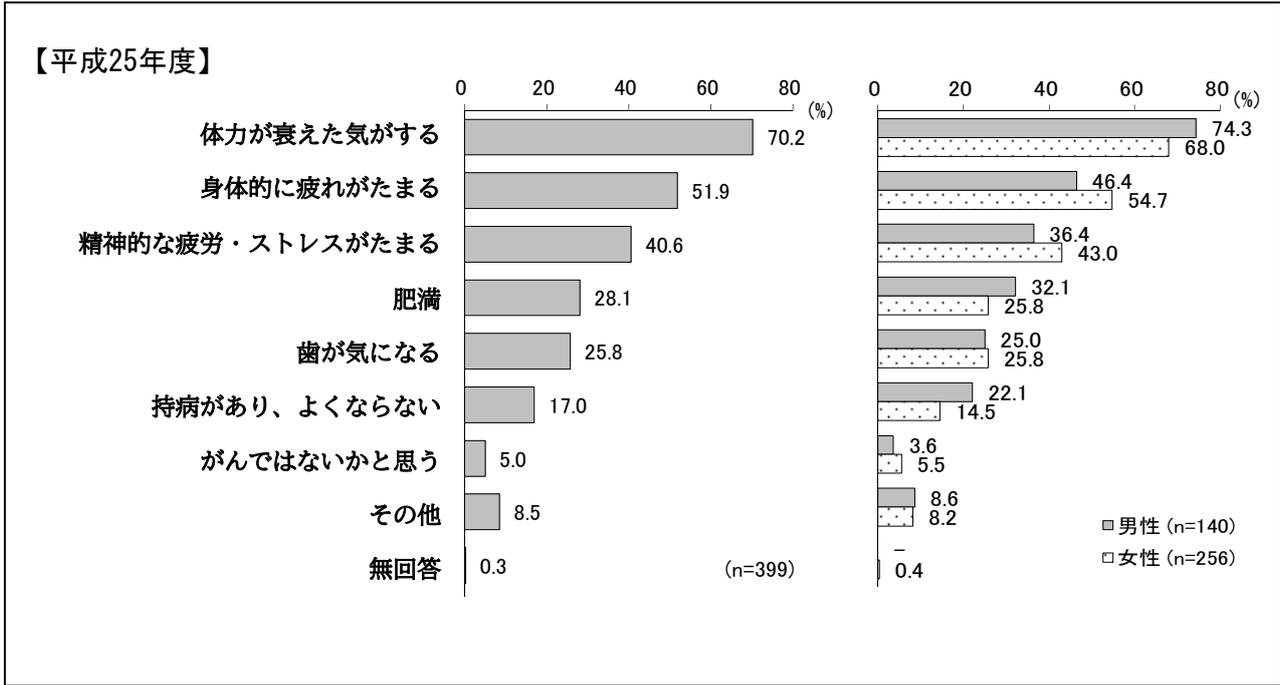
<図表Ⅲ-1-13>不安を感じること

【令和5年度】



【平成29年度】





問8-1で、「不安を感じる」と回答した人にその内容を聞いたところ、「体力が衰えた気がする」(71.5%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで「身体的に疲れがたまる」(54.5%)が5割台半ば、「精神的な疲労・ストレスがたまる」(42.6%)が4割を超えている。

性別で見ると、女性が男性より、「身体的に疲れがたまる」は10ポイント、「精神的な疲労・ストレスがたまる」は6ポイント高くなっている。「肥満」は男性が女性より10ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では、大きな違いはみられない。性別で見ると、男性は平成29年度から「精神的な疲労・ストレスがたまる」が8ポイント、「肥満」で7ポイント増加している。一方、女性は平成29年度から「体力が衰えた気がする」が6ポイント、「身体的に疲れがたまる」が5ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-13)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ-1-14> (全項目)

		n	(%)									
			体力が衰えた気がする	身体的に疲れがたまる	精神的な疲労・ストレスがたまる	肥満	持病があり、よくなるらない	がんではないかと思う	歯・口の機能が気になる	その他	無回答	
性／年齢別	男性	20歳未満	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
		20歳代	12	66.7	41.7	41.7	50.0	-	-	16.7	-	-
		30歳代	39	59.0	46.2	46.2	35.9	7.7	7.7	17.9	12.8	2.6
		40歳代	52	69.2	73.1	55.8	59.6	3.8	7.7	26.9	13.5	-
		50歳代	79	65.8	57.0	41.8	34.2	21.5	6.3	27.8	6.3	-
		60歳代	57	78.9	33.3	22.8	24.6	22.8	7.0	21.1	7.0	-
		70歳代	31	74.2	29.0	19.4	6.5	29.0	-	25.8	12.9	-
		80歳以上	13	76.9	30.8	38.5	23.1	23.1	7.7	23.1	7.7	-
	女性	20歳未満	1	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-
		20歳代	25	60.0	60.0	56.0	24.0	8.0	-	20.0	8.0	-
		30歳代	72	69.4	72.2	61.1	27.8	6.9	5.6	27.8	2.8	-
		40歳代	96	78.1	68.8	43.8	25.0	14.6	7.3	27.1	6.3	-
		50歳代	85	69.4	62.4	45.9	25.9	20.0	2.4	27.1	4.7	-
		60歳代	53	77.4	60.4	39.6	24.5	17.0	1.9	35.8	7.5	-
70歳代		54	75.9	29.6	31.5	16.7	22.2	3.7	27.8	11.1	1.9	
80歳以上		30	73.3	33.3	33.3	6.7	36.7	-	40.0	3.3	-	

※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

※図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を■で区別するようにした。

男性では「体力が衰えた気がする」は60歳代で約8割と最も高く、次いで70歳代で7割台半ばとなっている。「身体的に疲れがたまる」は40歳代で7割台半ばとなっている。「精神的な疲労・ストレスがたまる」は40歳代で5割台半ばとなっており、「持病があり、よくなるらない」は70歳代で約3割、「歯・口の機能が気になる」は50歳代が約3割と最も高くなっている。一方、女性は「体力が衰えた気がする」は40歳代、60歳代で約8割と高く、次いで70歳代で7割台半ばとなっている。「身体的に疲れがたまる」は30歳代が7割を超えている。「精神的な疲労・ストレスがたまる」は30歳代が6割を超え、それ以降ほぼ年齢が上がるほど漸減している。また、「歯・口の機能が気になる」は80歳以上で4割、「持病があり、よくなるらない」は80歳以上が3割台半ばと最も高くなっている。「肥満」は30歳代で約3割だが、40歳～60歳代でも2割台半ばとなっている。(図表Ⅲ-1-14)

(7) かかりつけの医薬機関

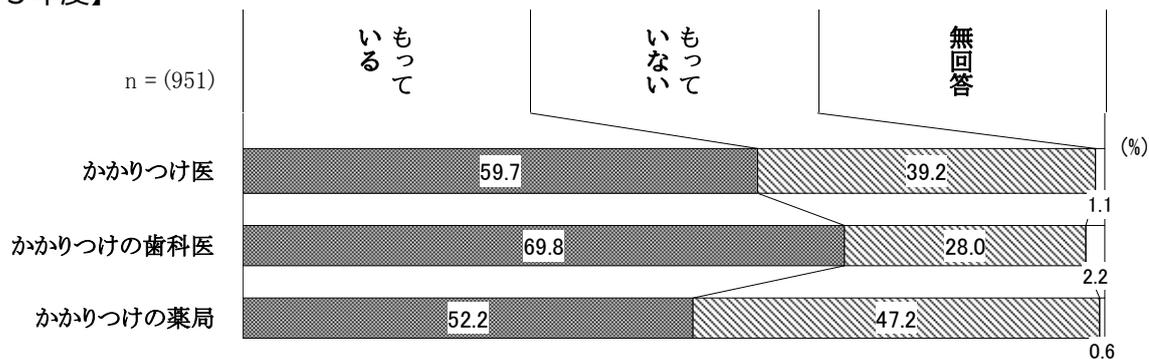
◇「もっている」は、「かかりつけの歯科医」が約7割

問9-1 あなたは、かかりつけの医者・歯科医・薬局をもっていますか。

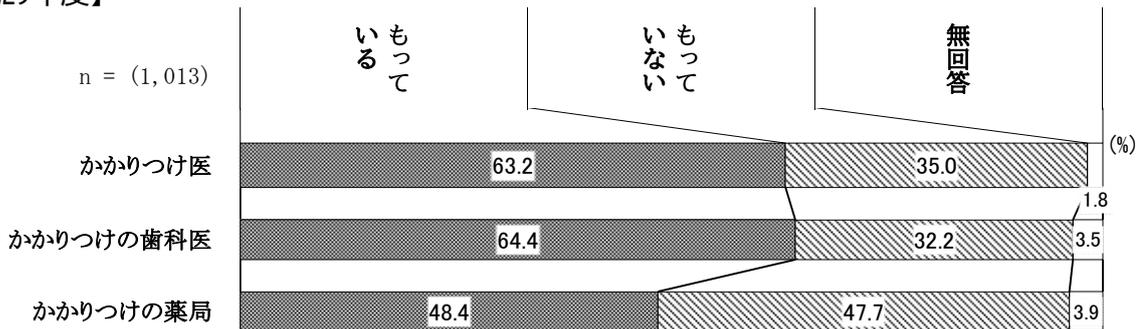
(○はそれぞれ1つずつ)

<図表Ⅲ-1-15>かかりつけの医薬機関

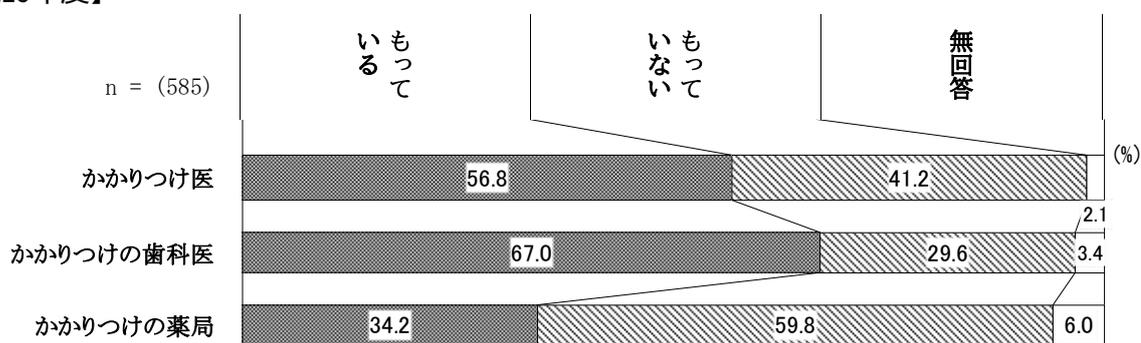
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



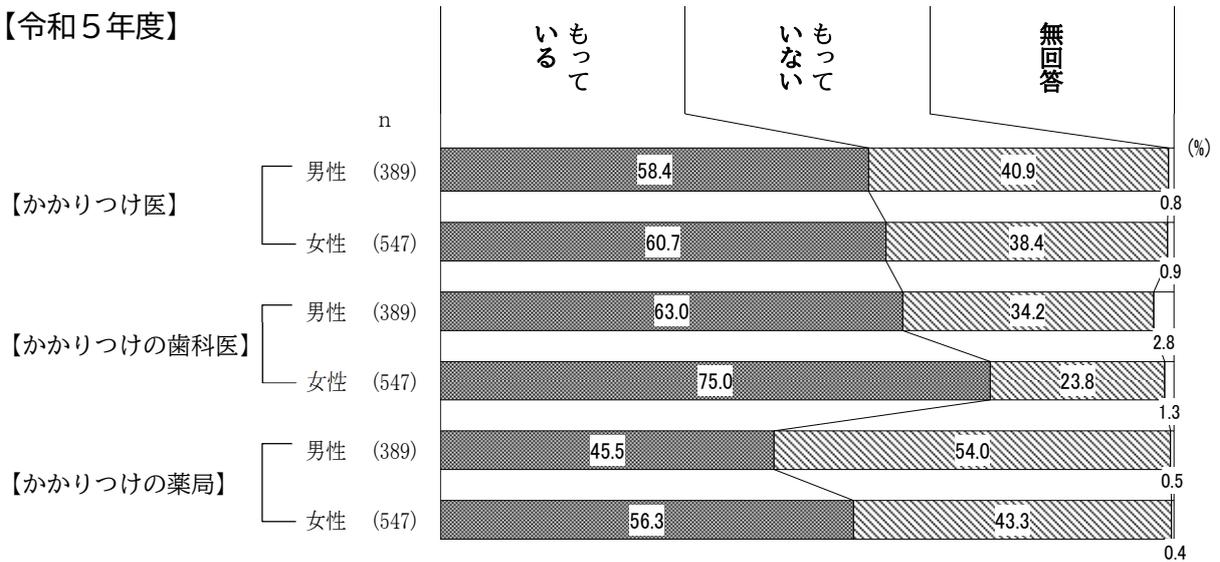
かかりつけの医薬機関について聞いたところ、「かかりつけ医」を「もっている」(59.7%)が約6割、「かかりつけの歯科医」を「もっている」(69.8%)が約7割、「かかりつけの薬局」を「もっている」(52.2%)が5割を超えており、いずれも「もっていない」を上回っている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけの歯科医”を「もっている」は平成29年度から5ポイント増加している。また、“かかりつけの薬局”は平成25年度からみても増加傾向にあり、18ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-15)

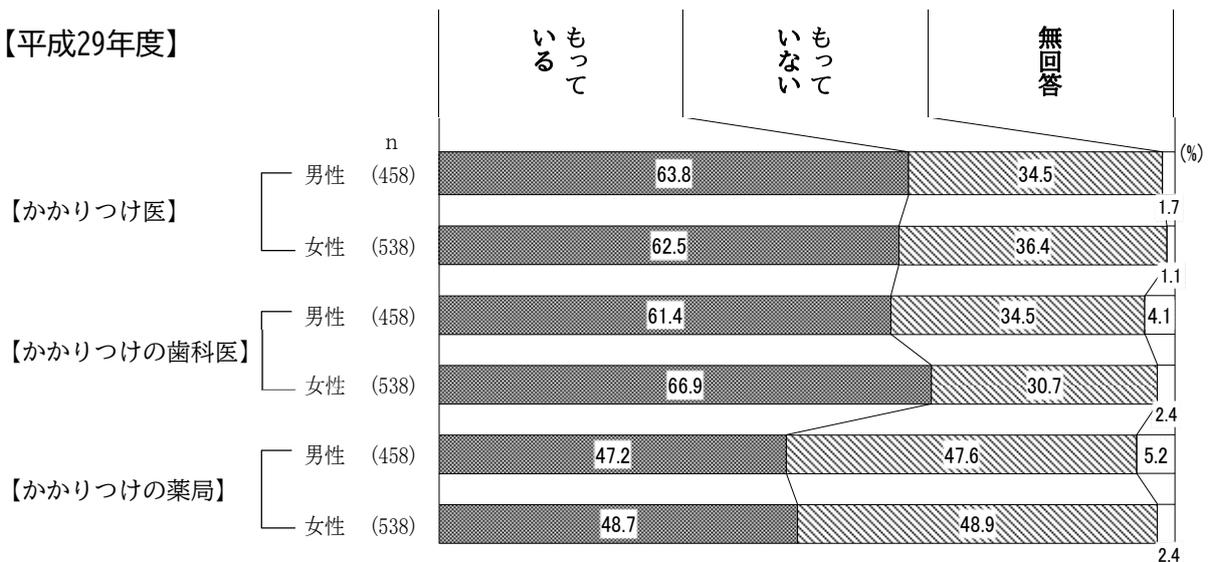
【性別】

<図表Ⅲ-1-16>

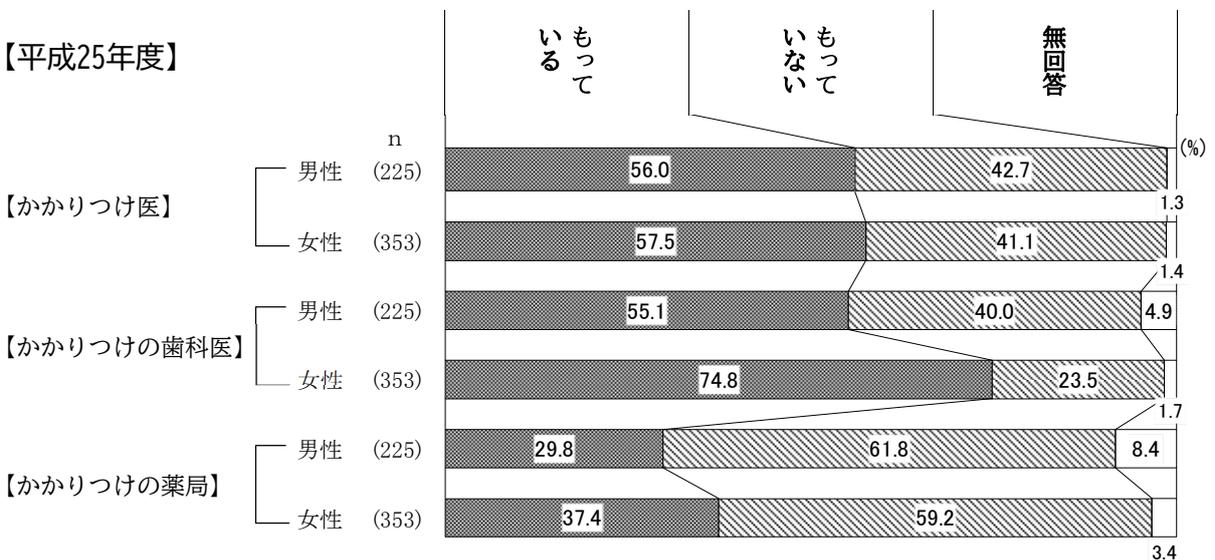
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



性別で見ると、「もっている」が“かかりつけの歯科医”で女性は男性より12ポイント、“かかりつけの薬局”で同10ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、「もっている」は“かかりつけの薬局”の女性が平成25年度から18ポイント、平成29年度から7ポイント増加し、“かかりつけの歯科医”の女性でも平成29年度から8ポイント増加している。また、“かかりつけ医”の男性で5ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-16)

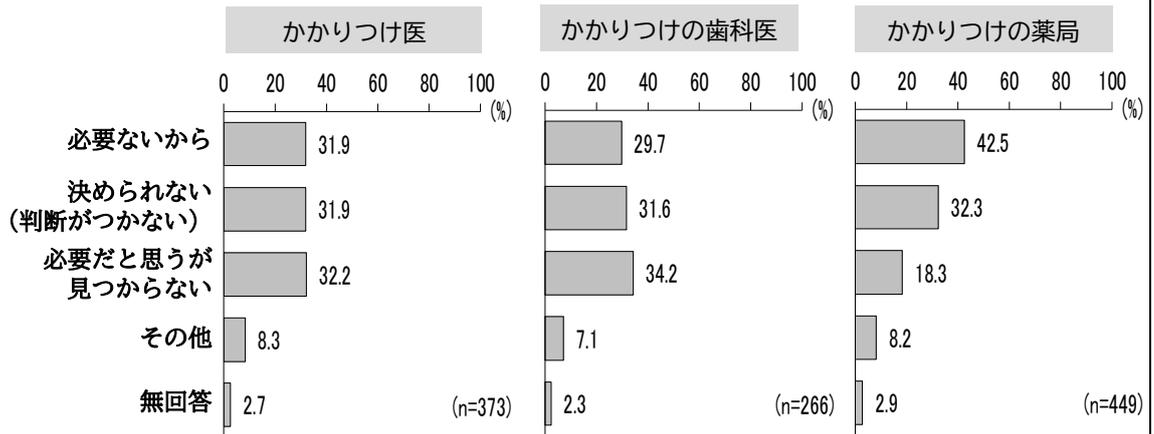
(8) かかりつけの医薬機関をもっていない理由

◇ “かかりつけの薬局” は「必要ないから」が4割を超える

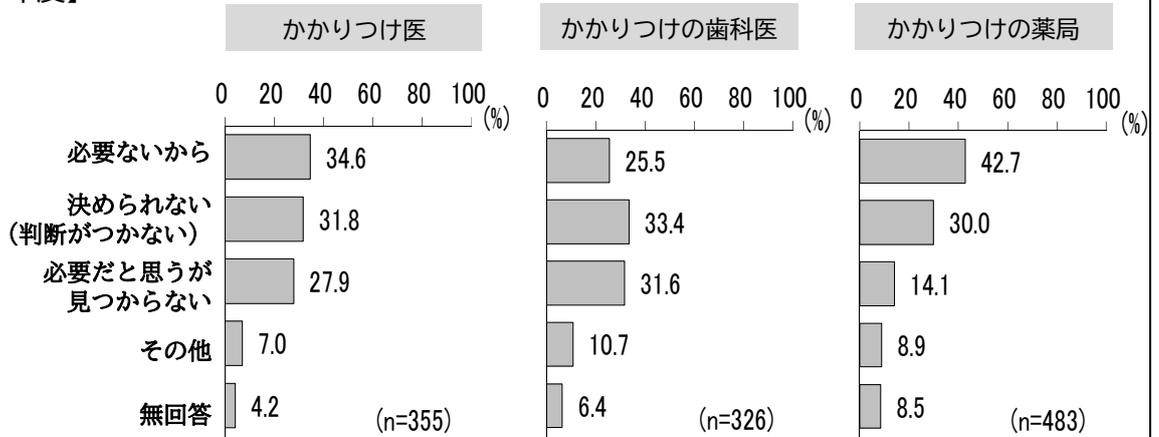
(問9-1で、1つでも「2 もっていない」とお答えの方に)  
問9-2 もっていない理由を選んでください。(○はそれぞれいくつでも)

<図表Ⅲ-1-17> かかりつけの医薬機関をもっていない理由

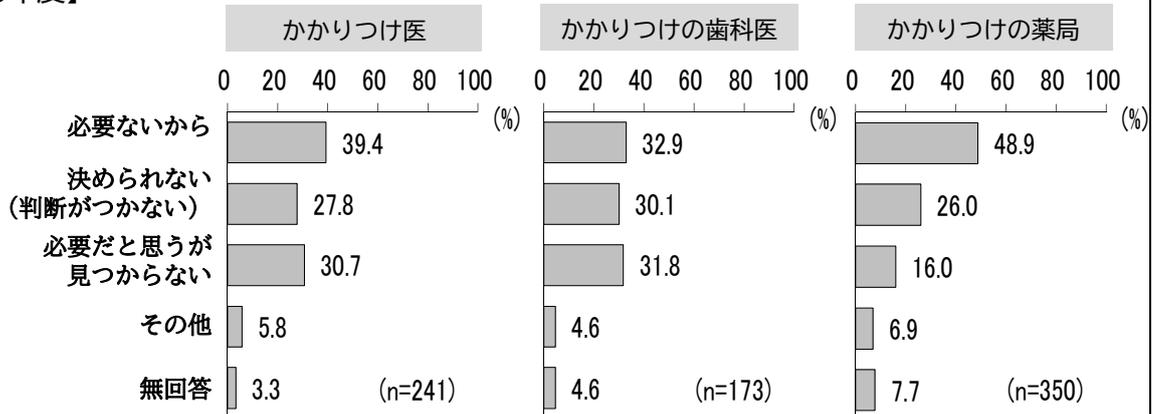
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



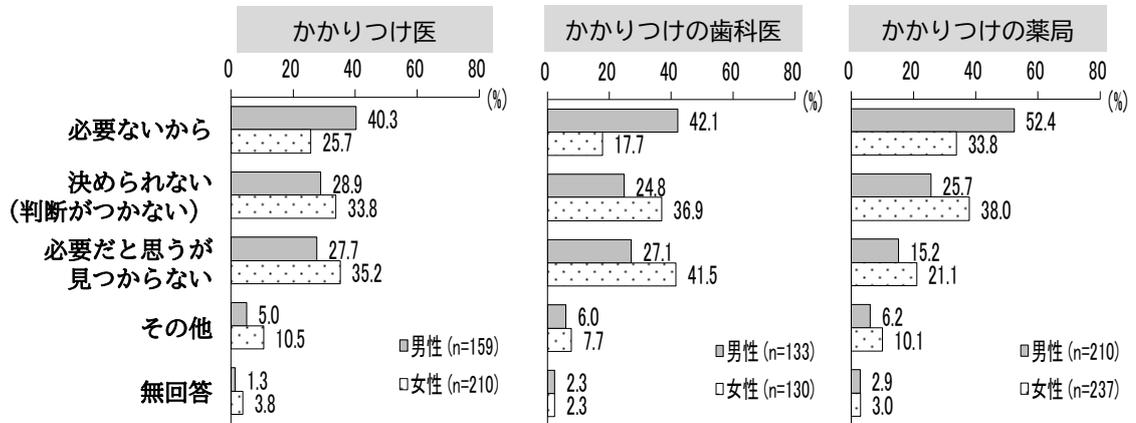
問9-1で、かかりつけの医薬機関を「もっていない」と回答した人に、もっていない理由を聞いたところ、「必要ないから」は“かかりつけ医”（31.9%）で3割を超え、“かかりつけの薬局”（42.5%）で4割を超えている。「決められない（判断がつかない）」は、すべて3割を超えている。「必要だと思うが見つからない」は“かかりつけの歯科医”（34.2%）で3割台半ば、“かかりつけ医”（32.2%）で3割を超えている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”は「必要ない」が減少傾向にあり、平成25年度から7ポイント減となっている。また、“かかりつけの薬局”は「決められない（判断がつかない）」が漸増しており、平成25年度から6ポイント増加している。（図表Ⅲ-1-17）

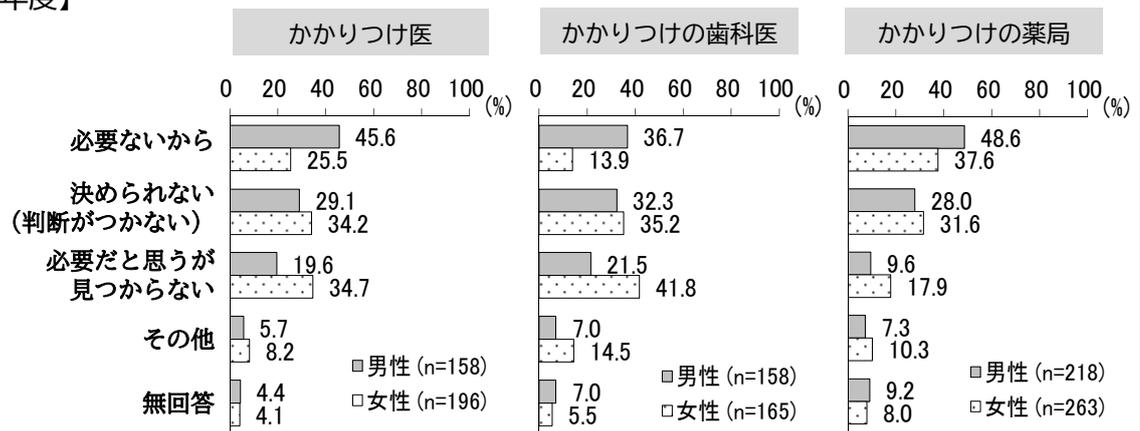
【性別】

<図表Ⅲ-1-18>

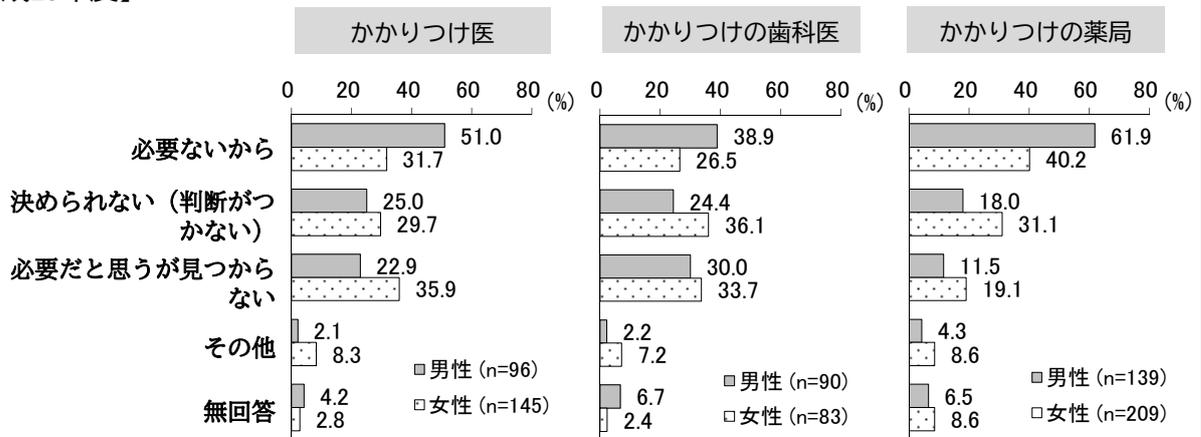
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



性別でみると、“かかりつけ医”は「必要ないから」が男性は女性より14ポイント高く、「必要だと思うが見つからない」は女性が男性より7ポイント高くなっている。“かかりつけの歯科医”は、「必要ないから」が男性は女性より24ポイント高く、「決められない（判断がつかない）」は女性が男性より12ポイント高く、「必要だと思うが見つからない」も女性が男性より14ポイント高くなっている。“かかりつけの薬局”は「必要ないから」が男性は女性より18ポイント高く、「決められない（判断がつかない）」は女性が男性より12ポイント高く、「必要だと思うが見つからない」も女性が男性より5ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、“かかりつけ医”は男性は「必要ないから」が平成25年度から10ポイント、平成29年度から5ポイント減少し、「必要だと思うが見つからない」は平成29年度から8ポイント増加している。“かかりつけの歯科医”は、男性で各項目の増減が目立ち、平成29年度から「必要ないから」と「必要だと思うが見つからない」は5ポイント増加し、「決められない（判断がつかない）」が7ポイント減少している。“かかりつけの薬局”は、平成29年度から「決められない（判断がつかない）」が女性で6ポイント減少し、「必要だと思うが見つからない」が男性で5ポイント増加している。（図表Ⅲ－1－18）

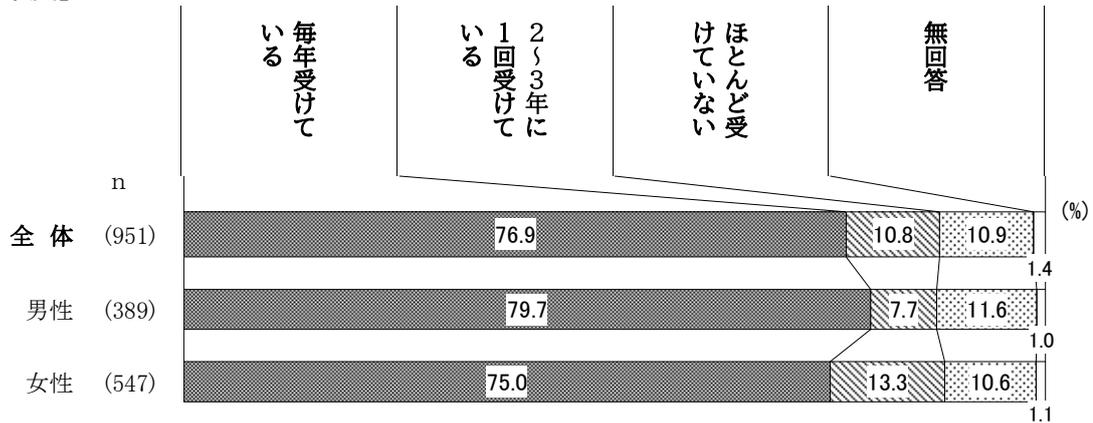
(9) 定期的な健康診断受診の有無

◇「毎年受けている」は7割台半ば、「ほとんど受けていない」は1割

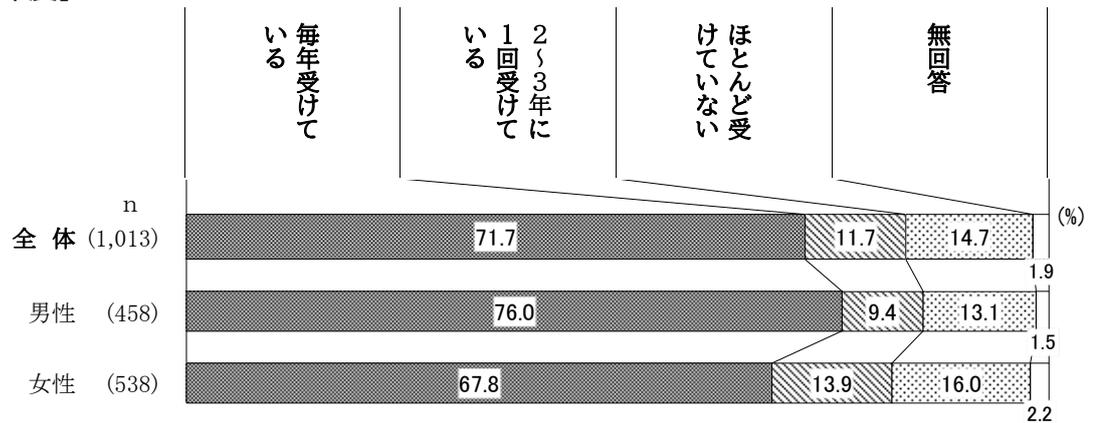
問10-1 あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-19> 定期的な健康診断受診の有無

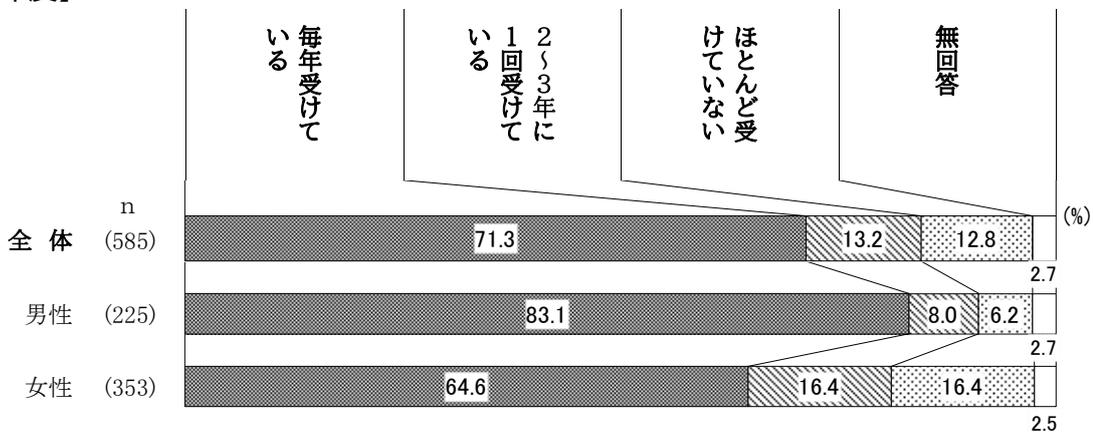
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

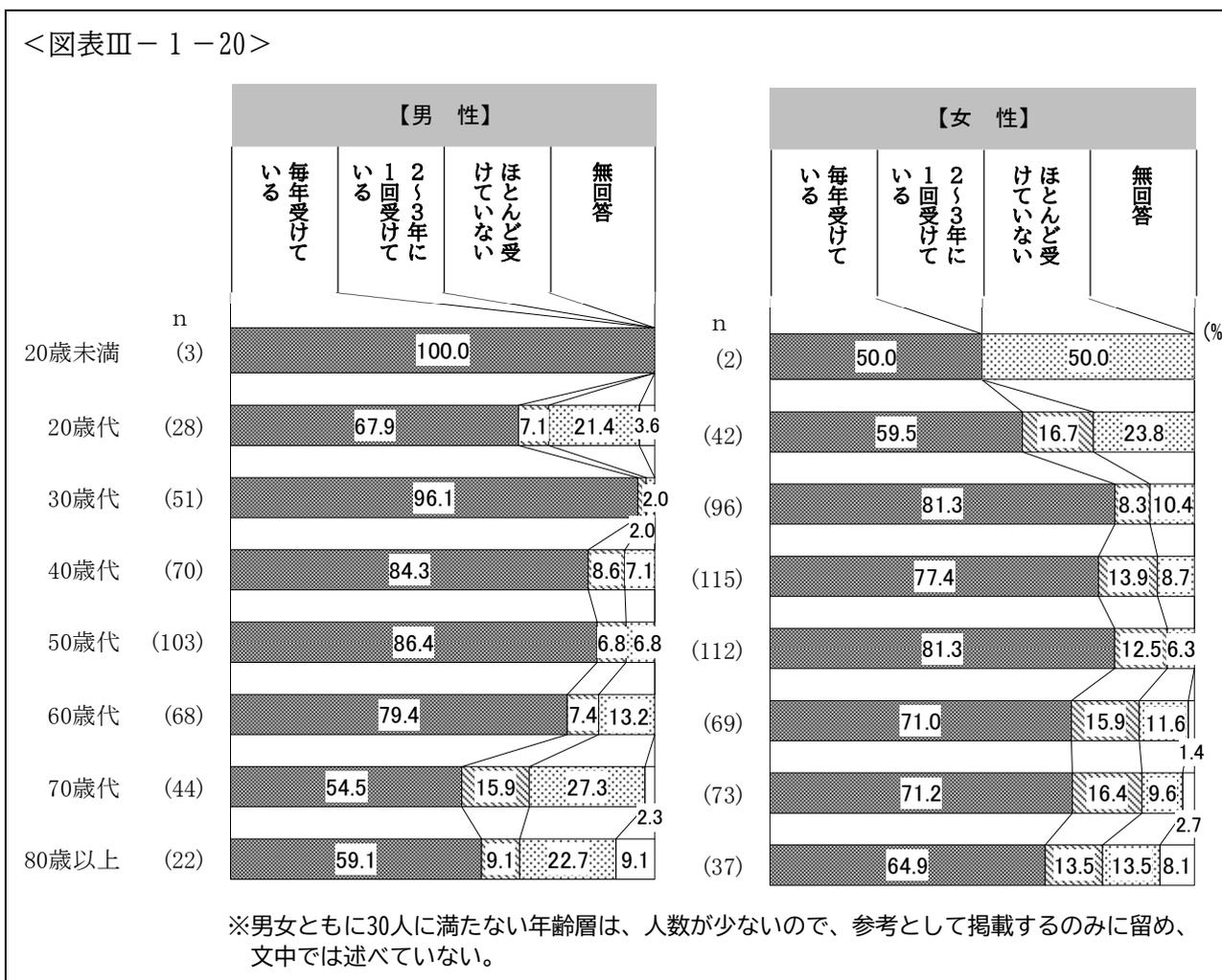


定期的な健康診断受診を受けているか聞いたところ、「毎年受けている」(76.9%)が7割台半ば、「2～3年に1回受けている」(10.8%)が1割となっている。これらを合わせると、《定期的に受けている》(87.7%)は約9割となっている。一方、「ほとんど受けていない」(10.9%)は1割となっている。

性別でみると、「2～3年に1回受けている」は女性の方が男性よりも5ポイント高く、1割台半ばとなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「毎年受けている」が平成29年度から5ポイント増加している。性別では、女性は平成29年度から「毎年受けている」が7ポイント、《定期的に受けている》では6ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-19)

【性／年齢別】



男性では「毎年受けている」は30歳代で9割台半ばを占めて最も高く、次いで40歳代、50歳代で8割台半ばとなっている。「ほとんど受けていない」は70歳代で約3割と高い。一方、女性では「毎年受けている」は30歳代、50歳代で8割を超えて高く、40歳代が約8割となっている。「ほとんど受けていない」は20歳代が2割台半ばと高くなっている。(図表Ⅲ-1-20)

(10) 健康診断の受診場所

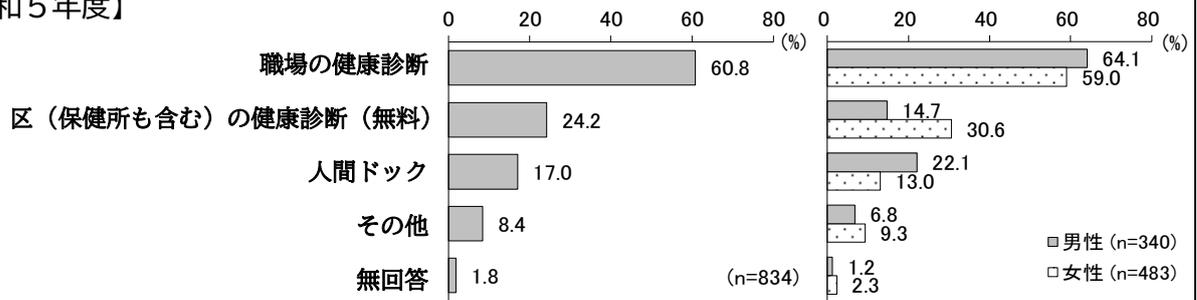
◇「職場の健康診断」が6割で最も高く、次いで「区の健康診断」が2割台半ば

(問10-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

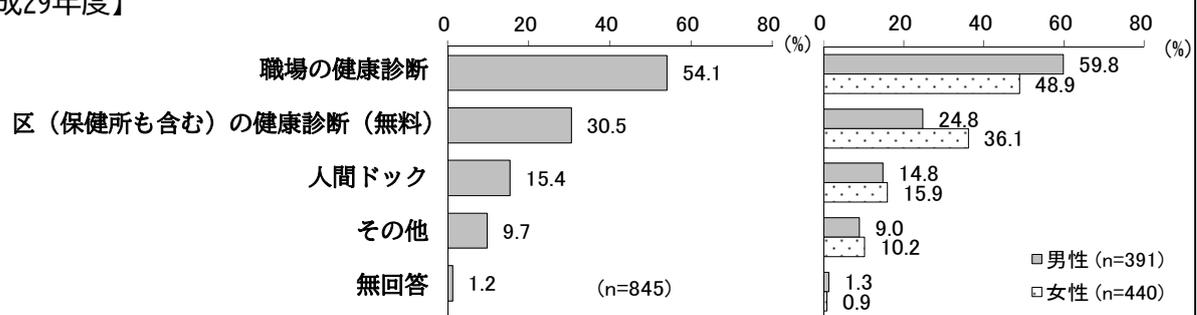
問10-2 健康診断は、どこで受けますか。(〇はいくつでも)

<図表Ⅲ-1-21> 健康診断の受診場所

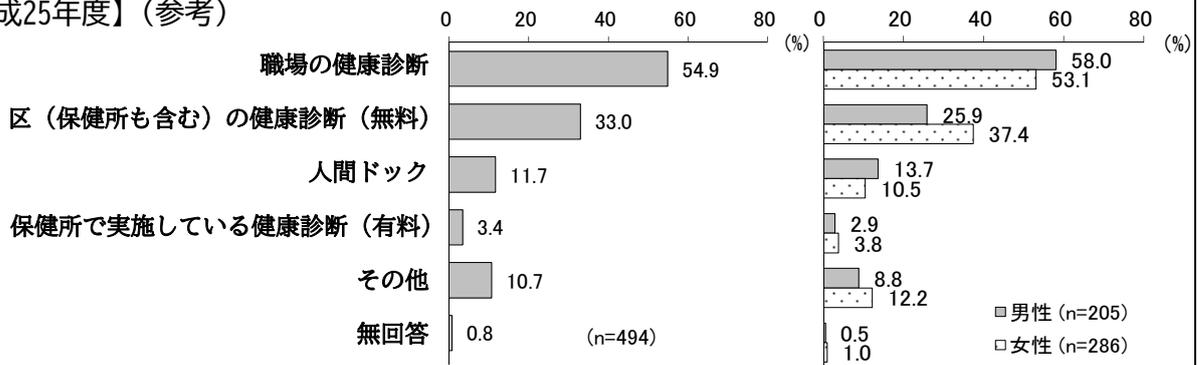
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】(参考)



問10-1で、「定期的に受けている」と回答した人にその受診場所を聞いたところ、「職場の健康診断」(60.8%)が6割、「区(保健所も含む)の健康診断(無料)」(24.2%)が2割台半ば、「人間ドック」(17.0%)が約2割となっている。

性別で見ると、「職場の健康診断」と「人間ドック」は男性が女性よりも高く、それぞれ5ポイント、9ポイント高く、「区(保健所も含む)の健康診断(無料)」は女性が男性より15ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「職場の健康診断」が平成29年度から6ポイント増加し、一方、「区（保健所も含む）の健康診断（無料）」は6ポイント減少している。性別では、「区（保健所も含む）の健康診断（無料）」が平成29年度から男性で10ポイント、女性で5ポイント減少している。また、女性では「職場の健康診断」で10ポイント、男性では「人間ドック」が7ポイント増加している。（図表Ⅲ－1－21）

(11) 健康診断受診後の行動

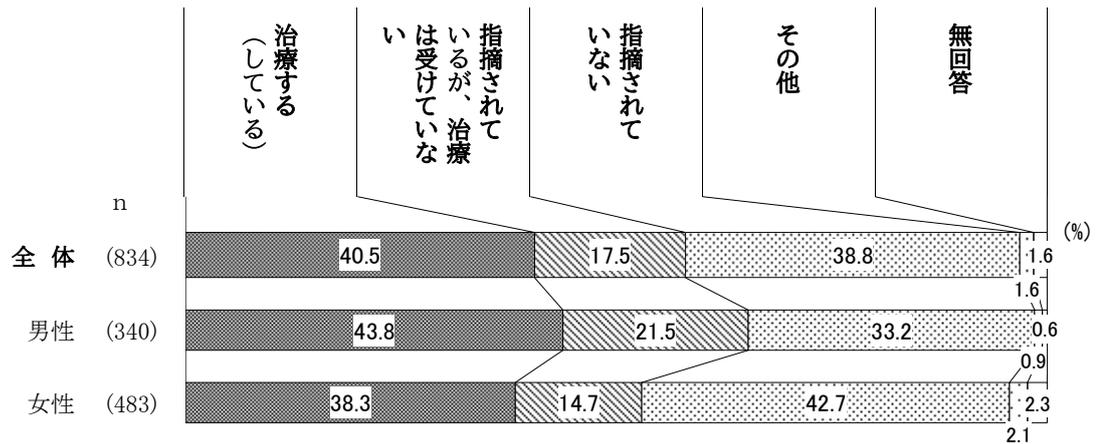
◇「治療する(している)」が4割、「指摘されていない」が約4割

(問10-1で、「1」か「2」とお答えの方に)

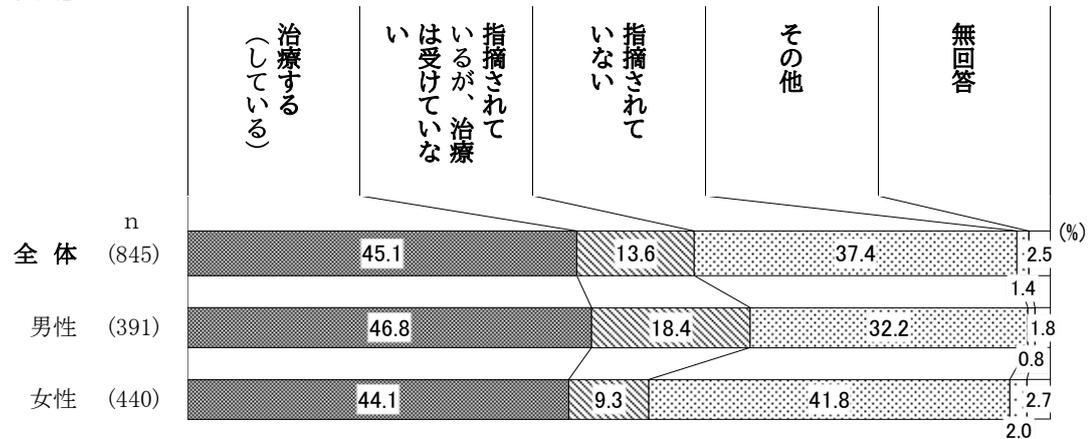
問10-3 健康診断の結果、指摘された事項について、どうしていますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-22> 健康診断受診後の行動

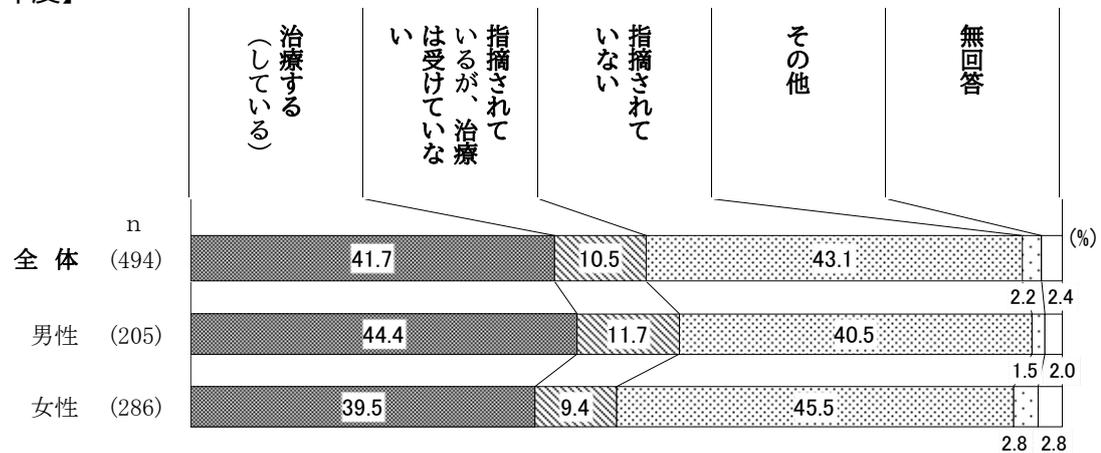
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



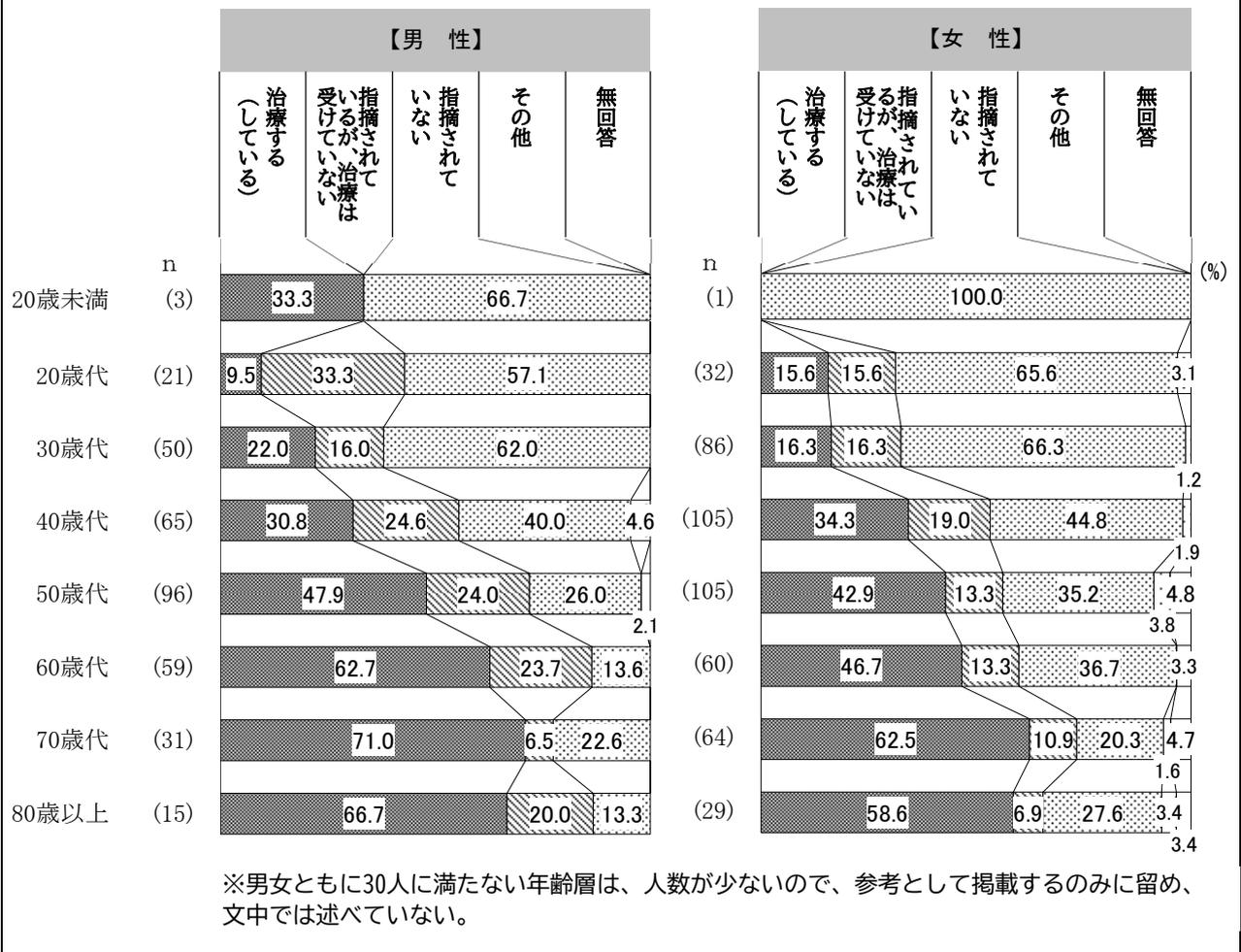
問10-1で、《定期的に受けている》と回答した人のうち、指摘事項について聞いたところ、「治療する（している）」（40.5％）で4割、「指摘されていない」（38.8％）は約4割、一方、「指摘されているが、治療は受けていない」（17.5％）が約2割となっている。

性別で見ると、「指摘されているが、治療は受けていない」は男性の方が女性よりも6ポイント高く、「指摘されていない」は女性が男性より9ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では「指摘されているが、治療は受けていない」がやや増加傾向にあり、平成25年度から7ポイント増加している。性別では「指摘されているが、治療は受けていない」で、男性は平成25年度から9ポイント、女性は平成29年度から5ポイント増加している。  
（図表Ⅲ-1-22）

【性／年齢別】

<図表Ⅲ－1－23>



男女ともに「治療する(している)」は年齢が上がるほど増加し、70歳代になると男性で7割を超え、女性は6割を超えている。また、男性では「指摘されているが、治療は受けていない」は40歳代から60歳代で2割台半ばと高くなっている。一方、女性では「指摘されているが、治療は受けていない」は40歳代で約2割となっている。

「指摘されていない」は、男性の30歳代が6割を超え、女性は20歳代、30歳代が6割台半ばとなっている。(図表Ⅲ－1－23)

(12) 通院の有無・通院頻度

①通院の有無

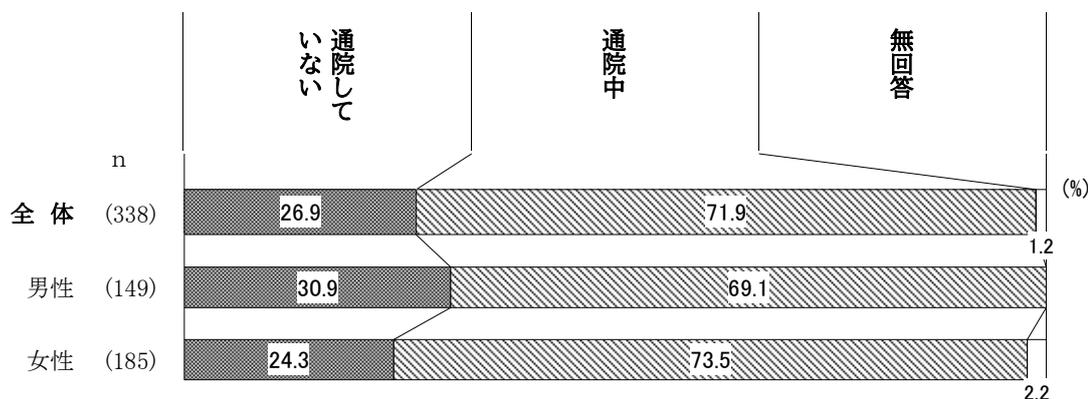
◇「通院していない」が2割台半ば、「通院中」は7割を超える

(問10-3で、「1 治療する(している)」とお答えの方に)  
問10-3-1 治療の状況についてうかがいます。

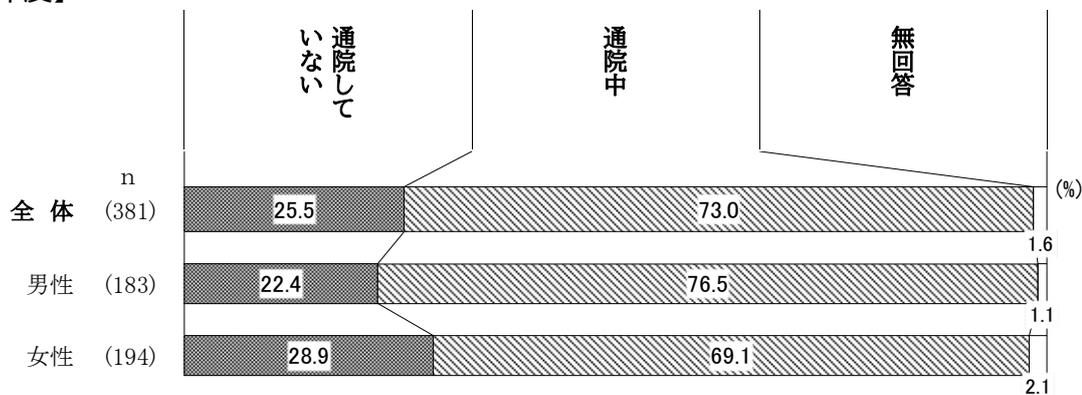
(1) 通院していますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-24>通院の有無

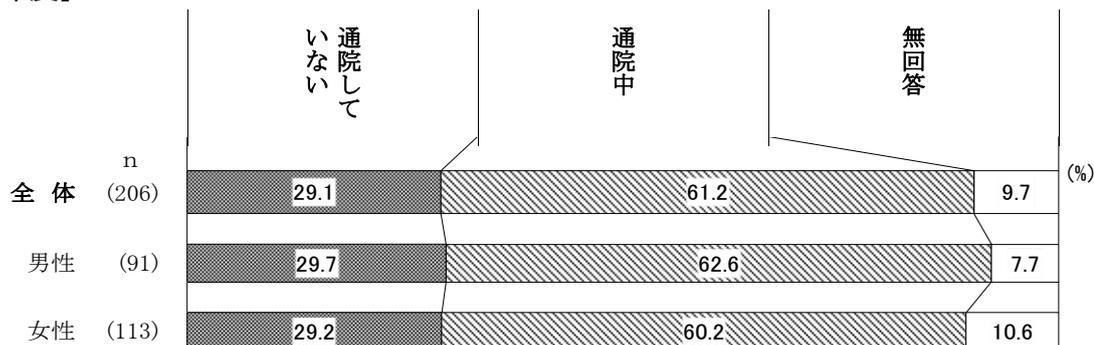
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



---

---

問10-3で、「治療する(している)」と回答した人に通院の有無を聞いたところ、「通院していない」(26.9%)が2割台半ば、「通院中」(71.9%)が7割を超えている。

性別で見ると、「通院中」が男性は女性より4ポイント高くなっている。

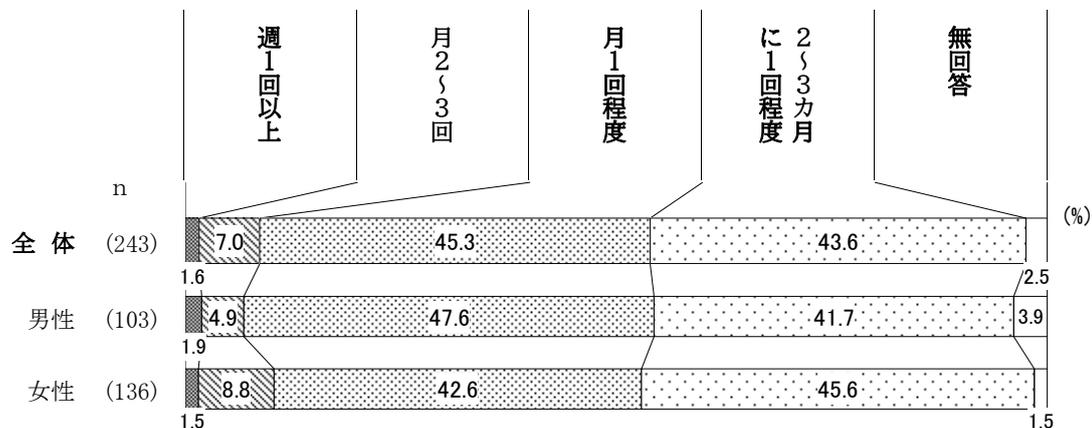
過去の調査結果と比較すると、全体では大きな違いはみられない。性別では、男性は「通院中」が平成29年度から7ポイント減少している。女性は「通院中」が増加傾向にあり、平成25年度からは13ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-24)

②通院頻度

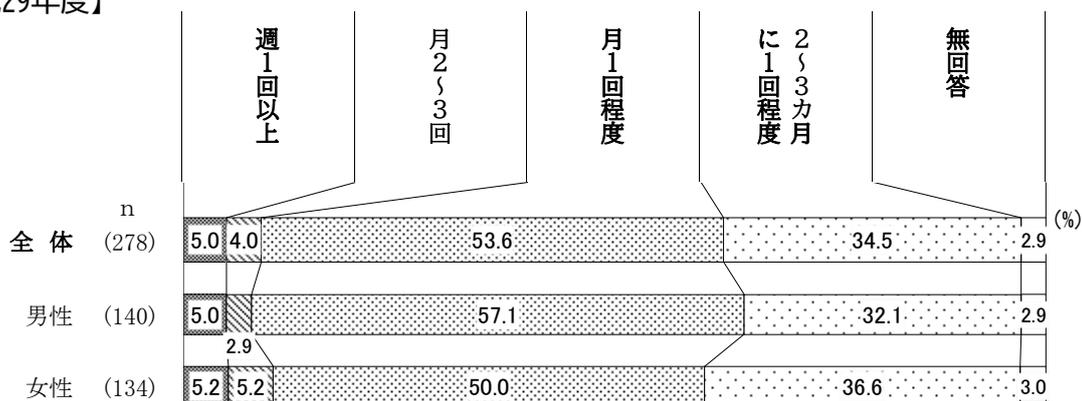
◇「月1回程度」と「2～3ヶ月に1回程度」が4割台半ば

<図表Ⅲ-1-25>通院頻度

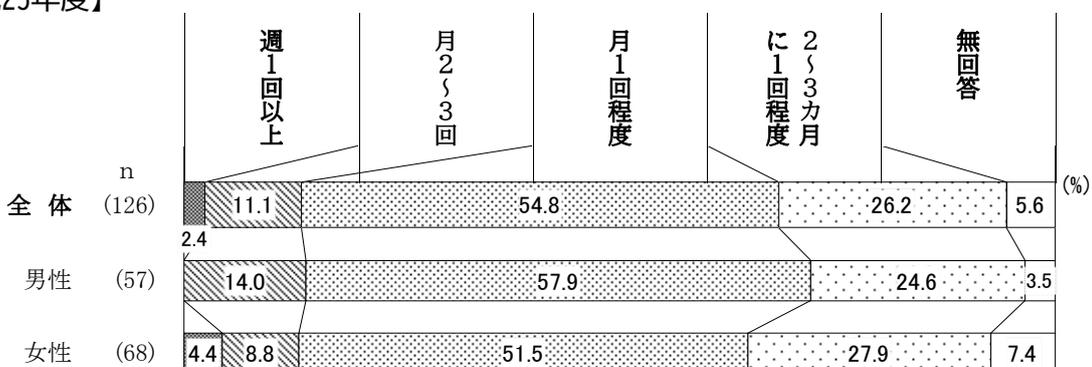
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



---

---

問10-3-1(1)で、「通院中」と回答した人に通院頻度を聞いたところ、「月1回程度」(45.3%)と「2~3ヶ月に1回程度」(43.6%)が4割台半ばで高くなっている。

性別で見ると、「月1回程度」が男性は女性より5ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体、男女ともに「月1回程度」は平成29年度から減少し、全体で8ポイント、男性で9ポイント、女性で7ポイント減となっている。一方、「2~3ヶ月に1回程度」は増加傾向にあり、平成25年度から男女ともに17ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-25)

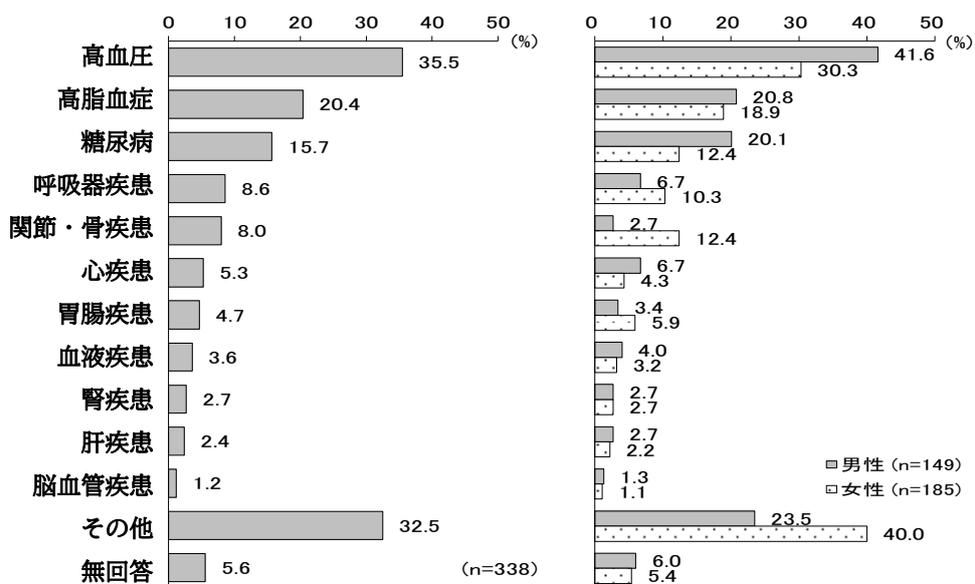
(13) かかっている病気の種類

◇「高血圧」が3割台半ばと最も高く、次いで「高脂血症」が2割

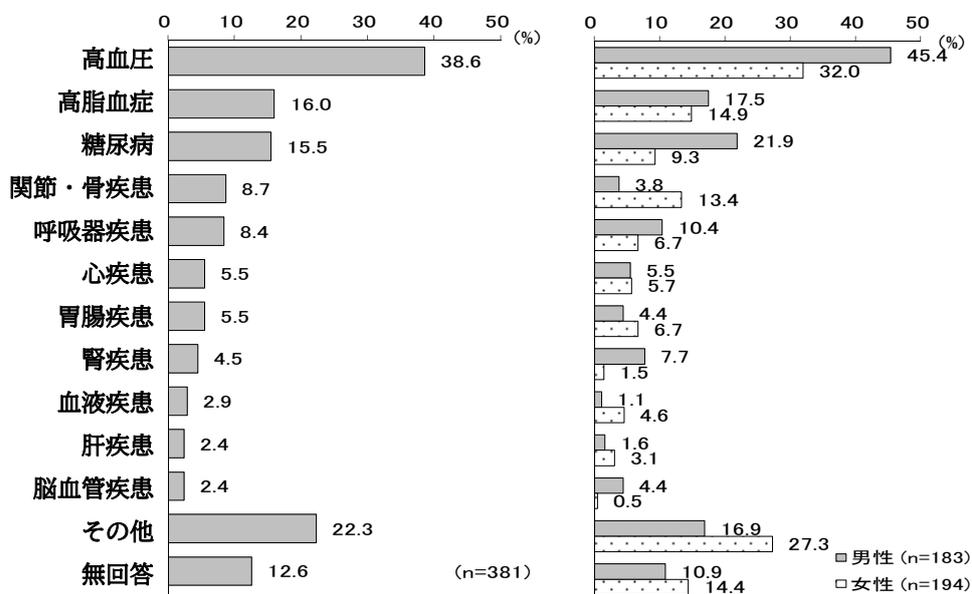
(2) かかっている病気の種類は何ですか。(○はいくつでも)

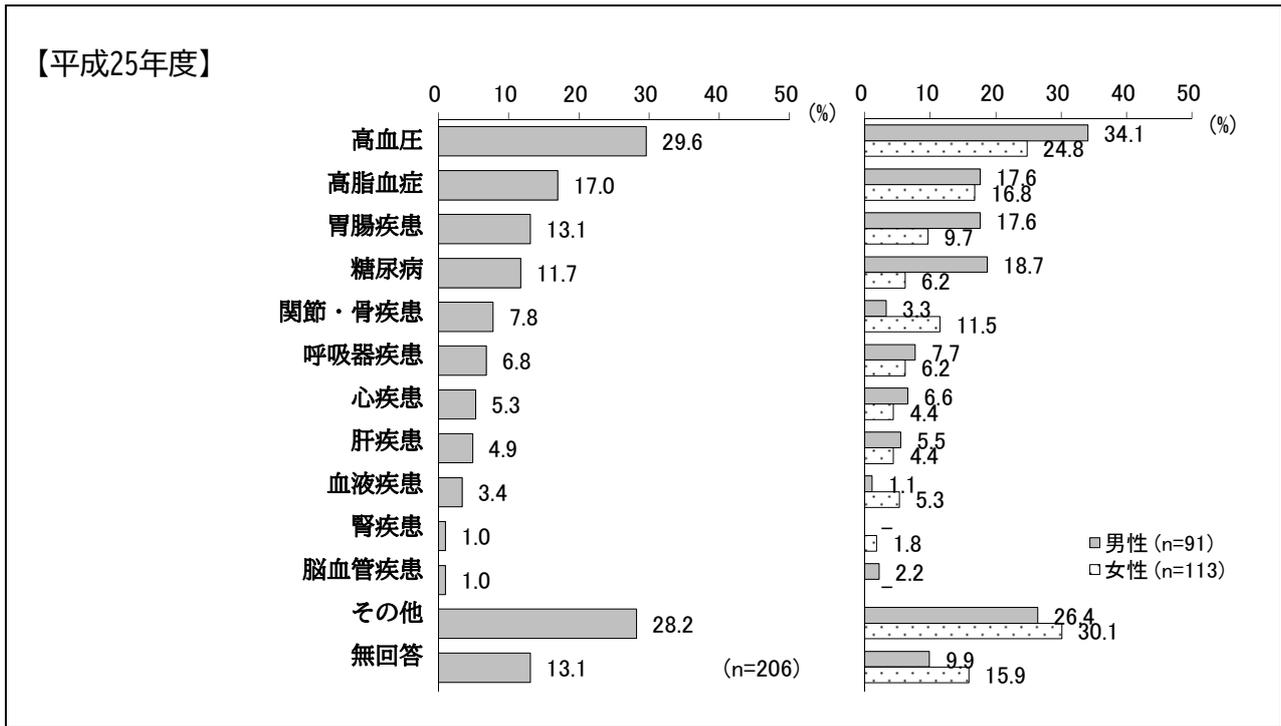
<図表Ⅲ-1-26>かかっている病気の種類

【令和5年度】



【平成29年度】





問10-3で、「治療する（している）」と回答した人にかかっている病気の種類を聞いたところ、「高血圧」（35.5%）が3割台半ばで最も高く、次いで「高脂血症」（20.4%）が2割、「糖尿病」（15.7%）が1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性が女性より、「高血圧」は11ポイント高く、4割を超え、「糖尿病」は7ポイント高く、2割となっている。「関節・骨疾患」は女性が男性より9ポイント高くなっている。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも平成29年度から大きな違いはみられない。（図表Ⅲ-1-26）

なお、今回の調査における、男女の上位5項目を整理すると、次のようになる。ただし、「その他」と「無回答」は除いている。（図表Ⅲ-1-27）

<図表Ⅲ-1-27>性別順位表（上位5項目）

男性		%	女性		%
第1位	高血圧	41.6	第1位	高血圧	30.3
第2位	高脂血症	20.8	第2位	高脂血症	18.9
第3位	糖尿病	20.1	第3位	糖尿病	12.4
第4位	呼吸器疾患	6.7	//	関節・骨疾患	12.4
//	心疾患	6.7	第5位	呼吸器疾患	10.3

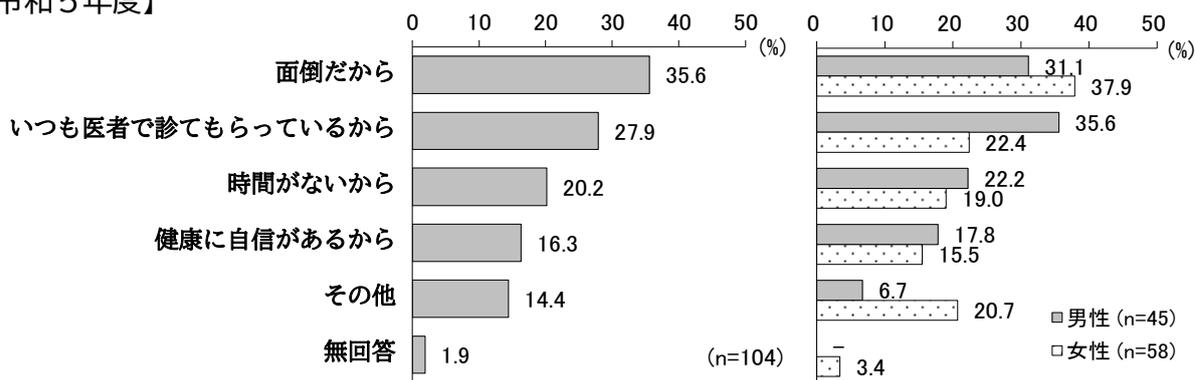
(14) 健康診断を受診しない理由

◇「面倒だから」が3割台半ばで最も高く、次いで「いつも医者で診てもらっているから」が約3割

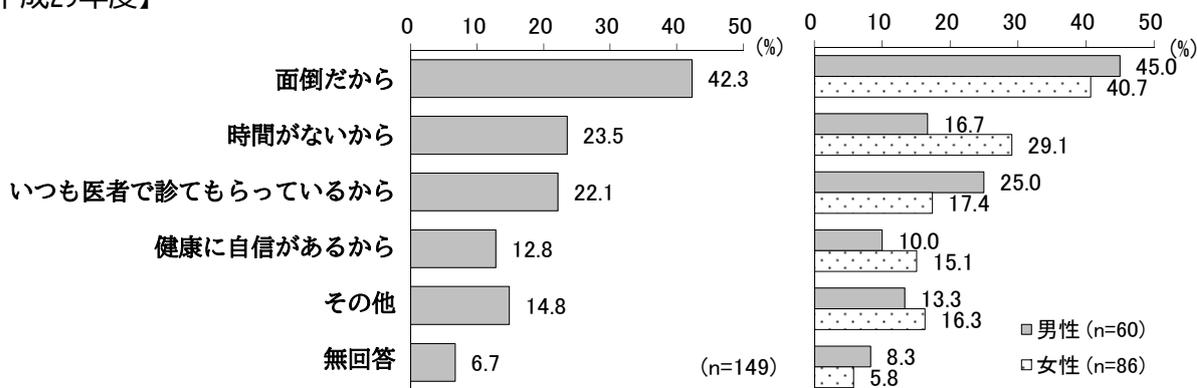
(問10-1で、「3 ほとんど受けていない」とお答えの方に)  
問10-4 健康診断を受けていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

<図表Ⅲ-1-28> 健康診断を受診しない理由

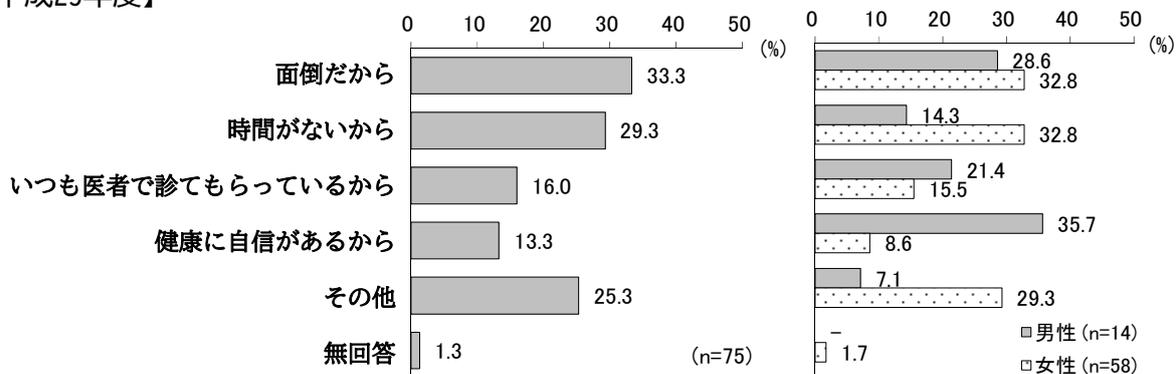
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】



---

---

問10-1で、健康診断を「ほとんど受けていない」と回答した人に理由を聞いたところ、「面倒だから」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、次いで「いつも医者で診てもらっているから」(27.9%)が約3割、「時間がないから」(20.2%)が2割となっている。

性別で見ると、「いつも医者で診てもらっているから」は男性が女性より13ポイント、「面倒だから」は女性が男性より6ポイント高くなっている。

過去の調査結果と比較すると、全体では、平成29年度から「面倒だから」が6ポイント減少している。性別では、男性は平成29年度から「いつも医者で診てもらっているから」「時間がないから」「健康に自信があるから」が、それぞれ10ポイント、5ポイント、7ポイント増加している。「面倒だから」は13ポイント減少している。女性は平成29年度から「いつも医者で診てもらっているから」が5ポイント増加し、「時間がないから」が10ポイント減少している。(図表Ⅲ-1-28)

【性／年齢別】

<図表Ⅲ-1-29> (全項目)

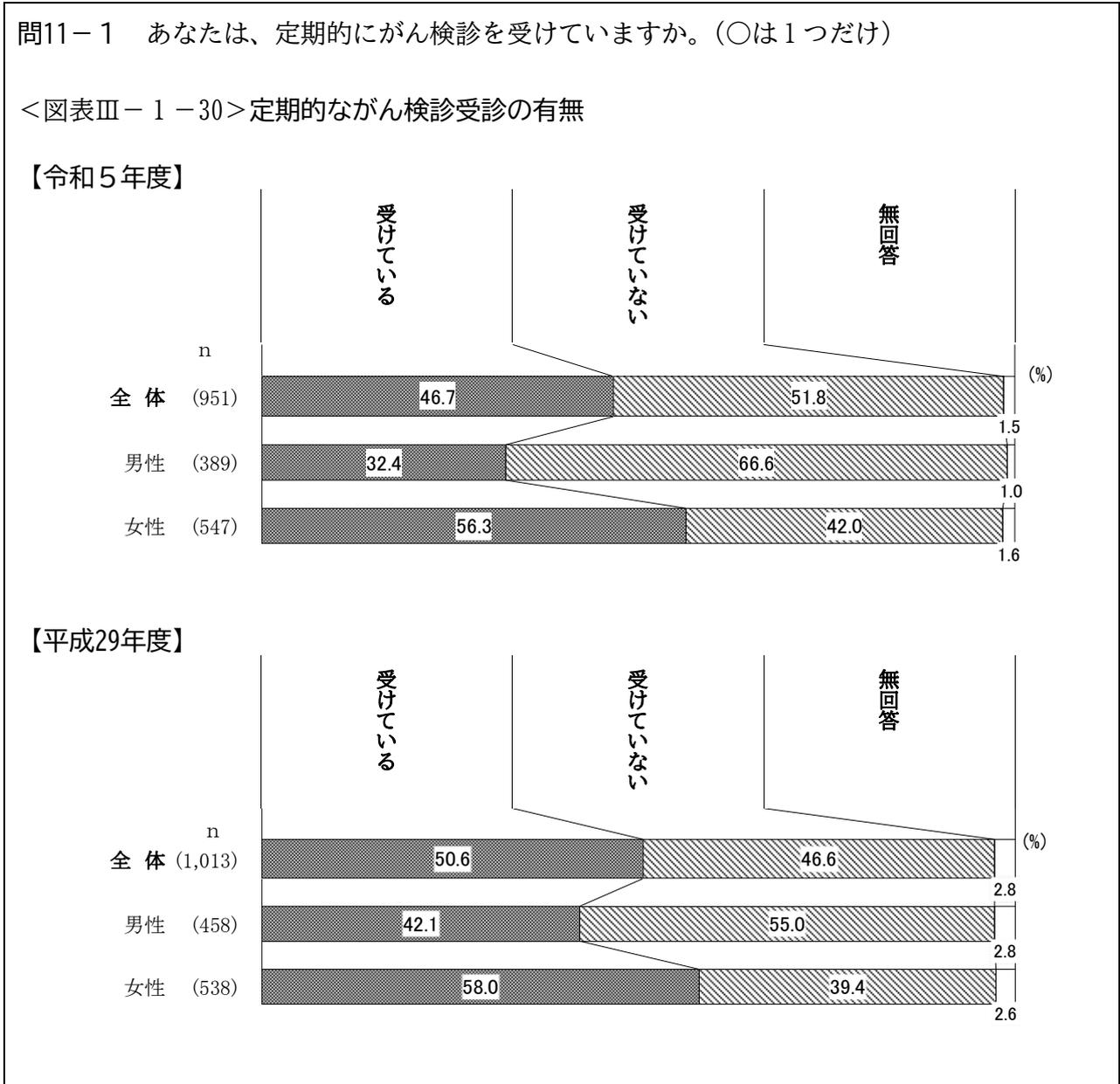
			(%)						
n			健康に自信があるから	時間がないから	面倒だから	もいつも医者で診て	その他	無回答	
性／年齢別	男性	20歳未満	-	-	-	-	-	-	
		20歳代	6	33.3	16.7	50.0	16.7	-	
		30歳代	1	-	-	-	-	100.0	
		40歳代	5	-	100.0	20.0	20.0	-	
		50歳代	7	-	28.6	28.6	28.6	14.3	
		60歳代	9	22.2	22.2	33.3	33.3	-	
		70歳代	12	16.7	-	33.3	50.0	8.3	
		80歳以上	5	40.0	-	20.0	60.0	-	
	女性	20歳未満	1	-	-	-	-	100.0	
		20歳代	10	30.0	20.0	40.0	20.0	30.0	
		30歳代	10	10.0	50.0	50.0	20.0	-	
		40歳代	10	-	20.0	70.0	-	30.0	
		50歳代	7	-	28.6	28.6	42.9	14.3	
		60歳代	8	12.5	-	25.0	25.0	50.0	
		70歳代	7	57.1	-	28.6	14.3	-	
80歳以上		5	-	-	-	60.0	20.0		

※男女ともに30人に満たない年齢層は、人数が少ないので、参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

すべての層でnが30人に満たないため、参考までに留める。(図表Ⅲ-1-29)

(15) 定期的ながん検診受診の有無

◇「受けている」は4割台半ば、「受けていない」は5割を超える



定期的ながん検診受診の有無では、「受けている」(46.7%)が4割台半ば、「受けていない」(51.8%)が5割を超えている。

性別でみると、「受けている」は女性が男性よりも23ポイント高く、「受けていない」は男性が女性より24ポイント高くなっている。

平成29年度の調査結果と比較すると、全体では「受けていない」が5ポイント増加している。性別では、男性で「受けていない」が11ポイント増加している。(図表Ⅲ-1-30)

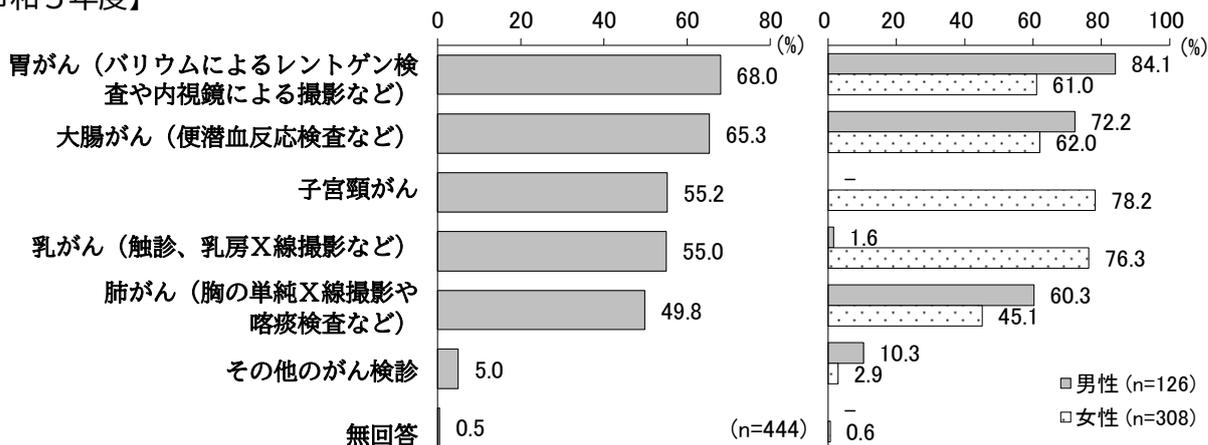
(16) 受診したがん検診の種類

◇「胃がん」が約7割で最も高く、次いで「大腸がん」が6割台半ば

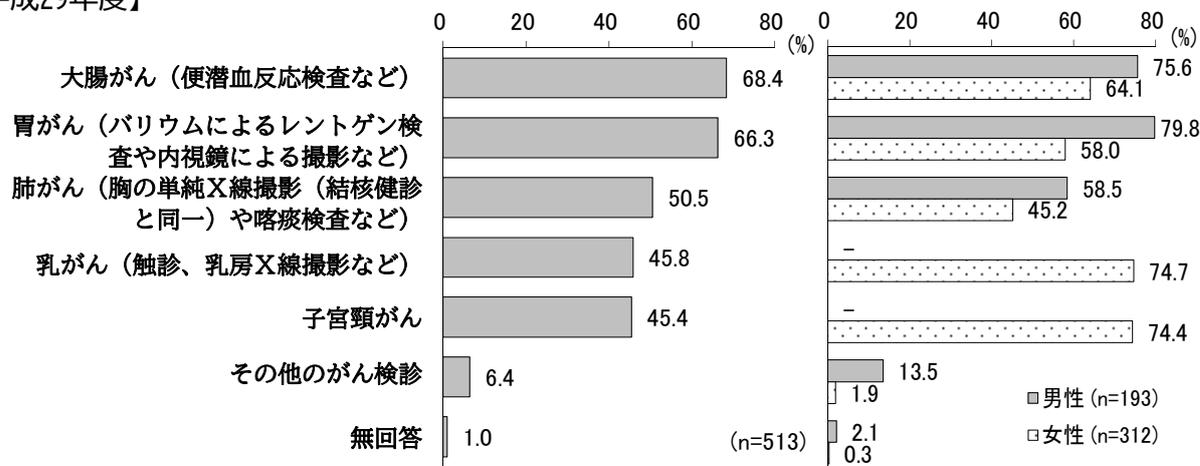
(問11-1で、「1 受けている」とお答えの方に)  
問11-2 どのがん検診を受けましたか。(○はいくつでも)

<図表Ⅲ-1-31> 受診したがん検診の種類

【令和5年度】



【平成29年度】



問11-1で、がん検診を「受けている」と回答した人に受診したがん検診の種類を聞いたところ、「胃がん (バリウムによるレントゲン検査や内視鏡による撮影など)」(68.0%) が約7割で最も高く、「大腸がん (便潜血反応検査など)」(65.3%) が6割台半ばとなっている。

性別で見ると、男女ともに受診できる検診は男性の方が女性よりも高く、順に列挙すると、「胃がん (バリウムによるレントゲン検査や内視鏡による撮影など)」で23ポイント、「肺がん (胸の単純X線撮影や喀痰検査など)」で15ポイント、「大腸がん (便潜血反応検査など)」で10ポイントの差がある。一方、女性は「子宮頸がん」(78.2%) が約8割、「乳がん (触診、乳房X線撮影など)」(76.3%) が7割台半ばとなっている。

平成29年度の調査結果との比較では、全体、性別ともに大きな違いはみられない。(図表Ⅲ-1-31)

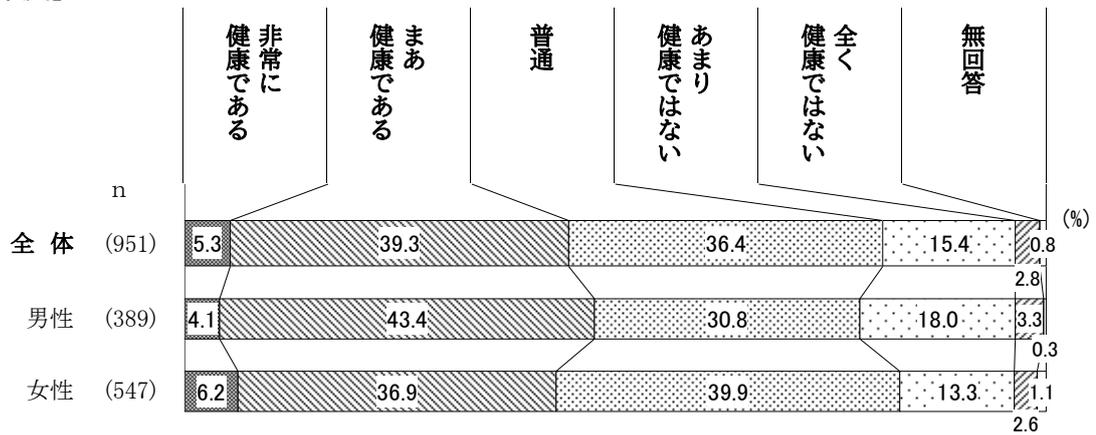
(17) 健康状態（主観的）

◇《健康である》が4割台半ばで、「健康ではない」が1割台半ば

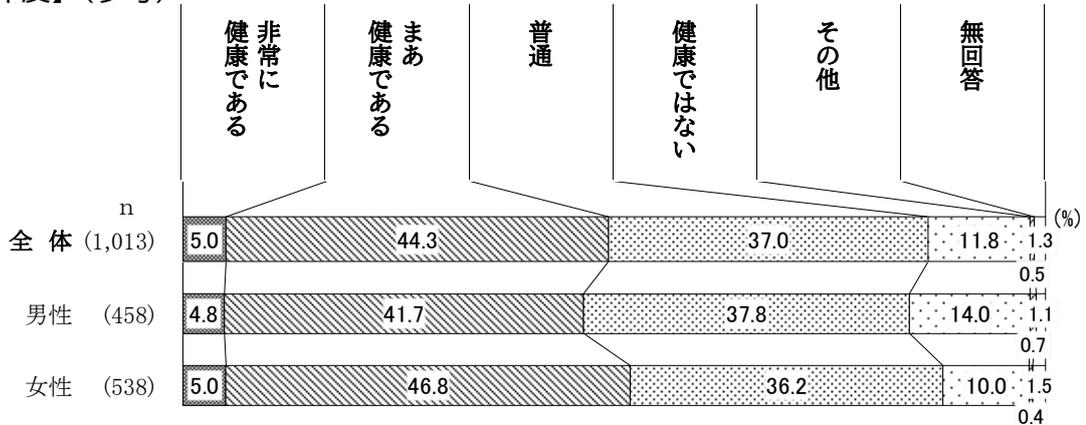
問12 あなたは、自分が健康であると思いますか。（○は1つだけ）

<図表Ⅲ－1－32>健康状態（主観的）

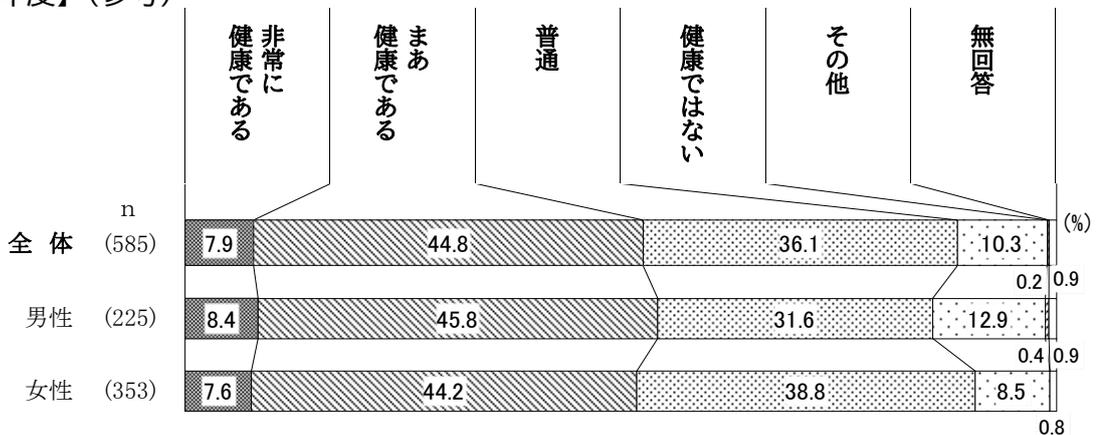
【令和5年度】



【平成29年度】（参考）



【平成25年度】（参考）

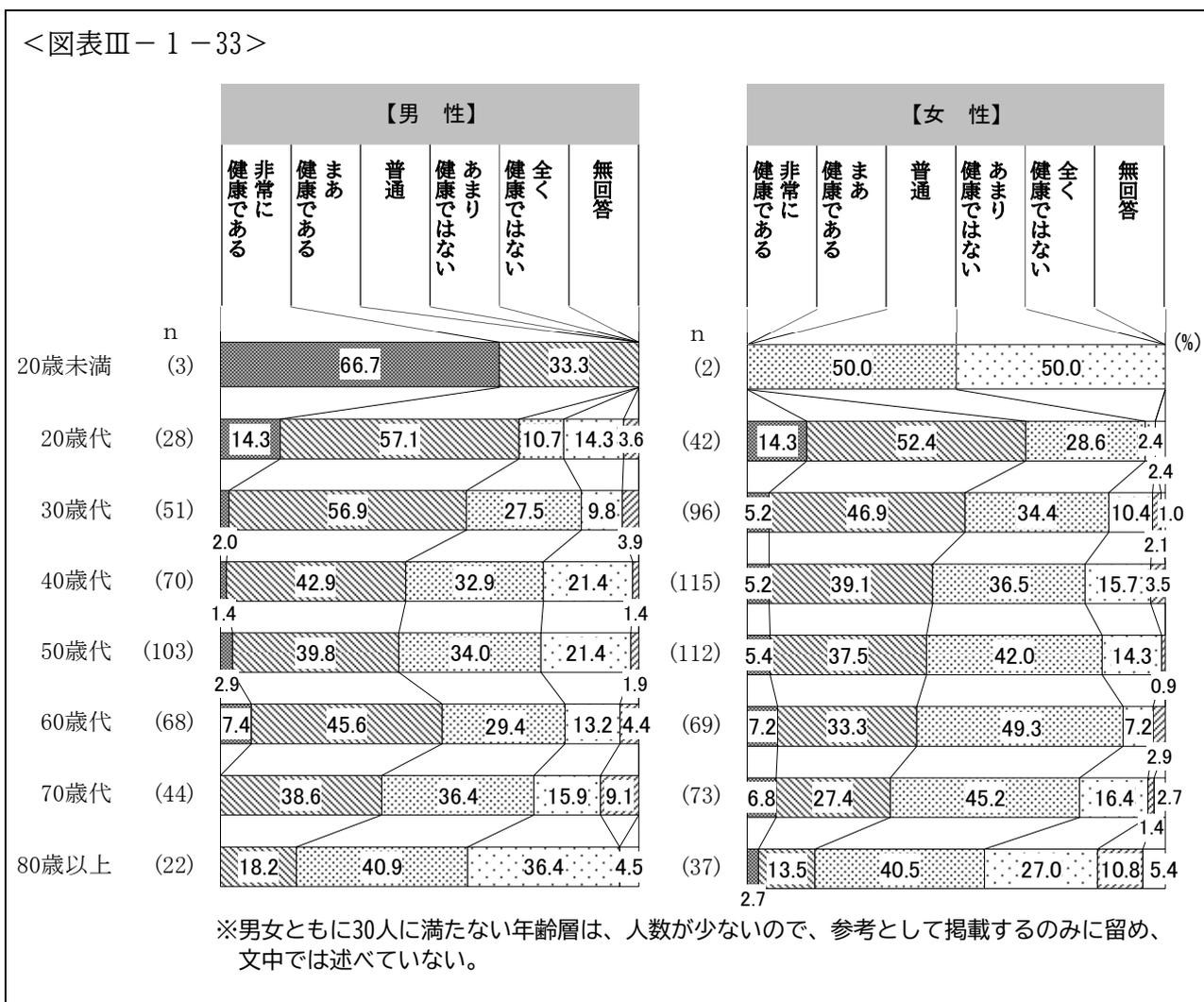


現在の健康状態（主観的）を聞いたところ、「非常に健康である」（5.3%）と「まあ健康である」（39.3%）を合わせた《健康である》（44.6%）は4割台半ばとなっている。また、「普通」（36.4%）は3割台半ばとなっている。一方、「あまり健康ではない」（15.4%）と「全く健康ではない」（2.8%）を合わせた《健康ではない》（18.2%）は約2割となっている。

性別でみると、「普通」は女性が男性よりも9ポイント高く、約4割となっている。

過去の調査結果と比較すると、前回までと選択肢が異なるので参考に留めるが、全体では「まあ健康である」が平成29年度から5ポイント減少している。性別では、男性は「普通」が平成29年度から7ポイント減少している。女性は平成29年度から「まあ健康である」が9ポイント、《健康である》でも8ポイント減少している。（図表Ⅲ－1－32）

【性／年齢別】



男性では、《健康である》が30歳代で約6割と最も高く、60歳代が5割台半ばと続く。「普通」は50歳代、70歳代が3割台半ば、「あまり健康ではない」は40歳代、50歳代が2割を超えている。一方、女性では、《健康である》は、20歳代が6割台半ばで最も高く、年齢が上がるにつれ減少していく。「普通」は60歳代で約5割、「あまり健康ではない」は80歳以上で約3割となっている。（図表Ⅲ－1－33）

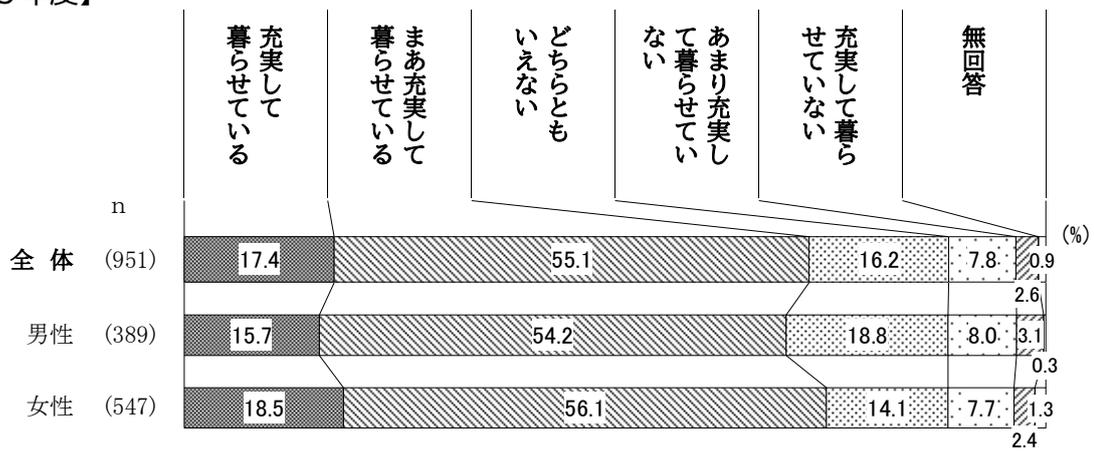
(18) 日常生活の充実度

◇ 《充実して暮らせている》は7割を超え、一方、《暮らせていない》は1割

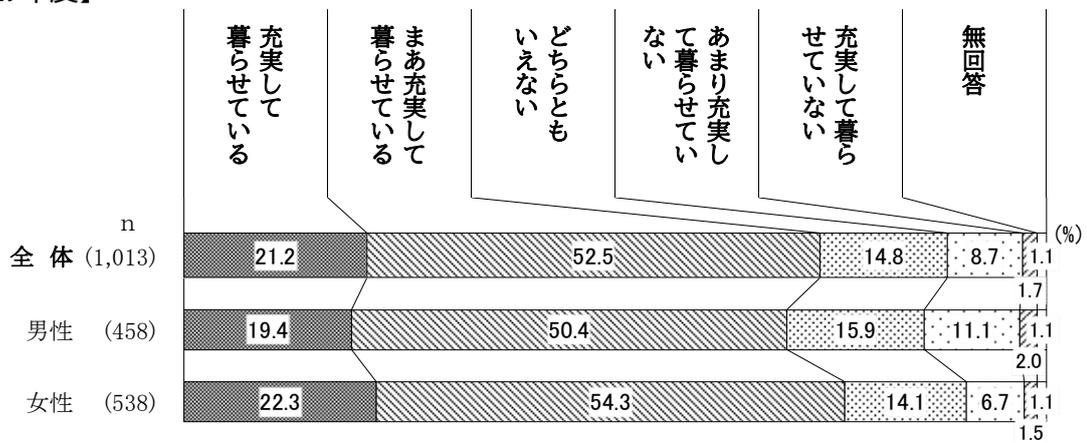
問13 あなたは、毎日を充実して暮らせていると思いますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-34> 日常生活の充実度

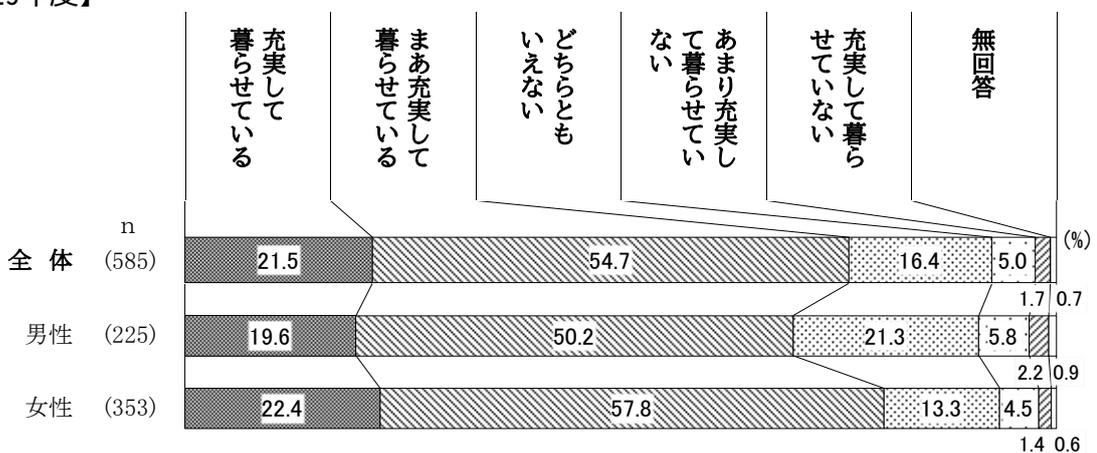
【令和5年度】



【平成29年度】



【平成25年度】

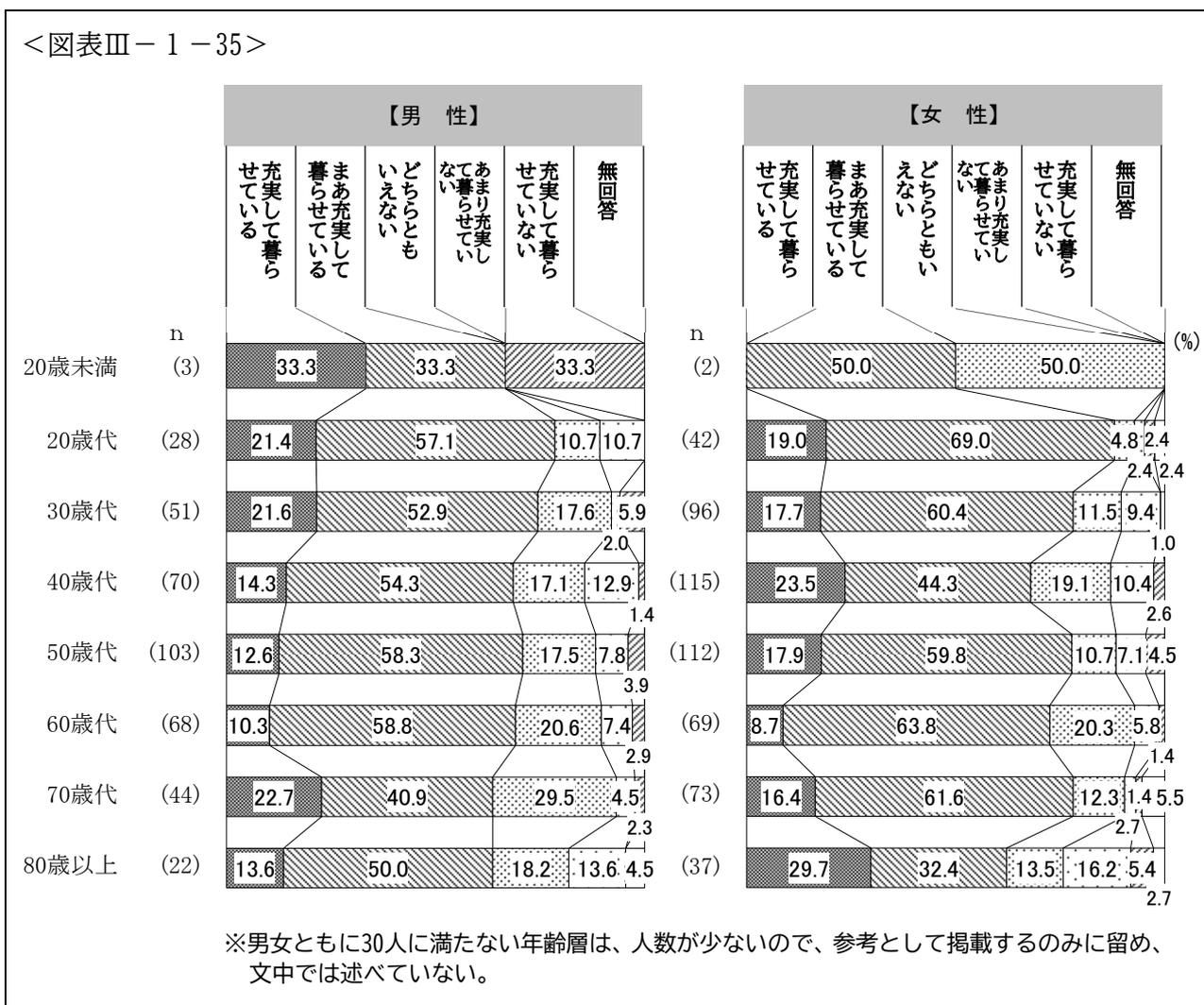


日常生活の充実度を聞いたところ、「充実して暮らせている」(17.4%)が約2割、「まあ充実して暮らせている」(55.1%)は5割台半ばとなっている。これらを合わせた《充実して暮らせている》(72.5%)は7割を超えている。一方、「あまり充実して暮らせていない」(7.8%)と「充実して暮らせていない」(2.6%)を合わせた《充実して暮らせていない》(10.4%)は1割となっている。「どちらともいえない」(16.2%)は1割台半ばとなっている。

性別では、大きな違いはみられない。

過去の調査結果との比較では、全体、性別とも大きな違いはみられない。(図表Ⅲ-1-34)

【性／年齢別】



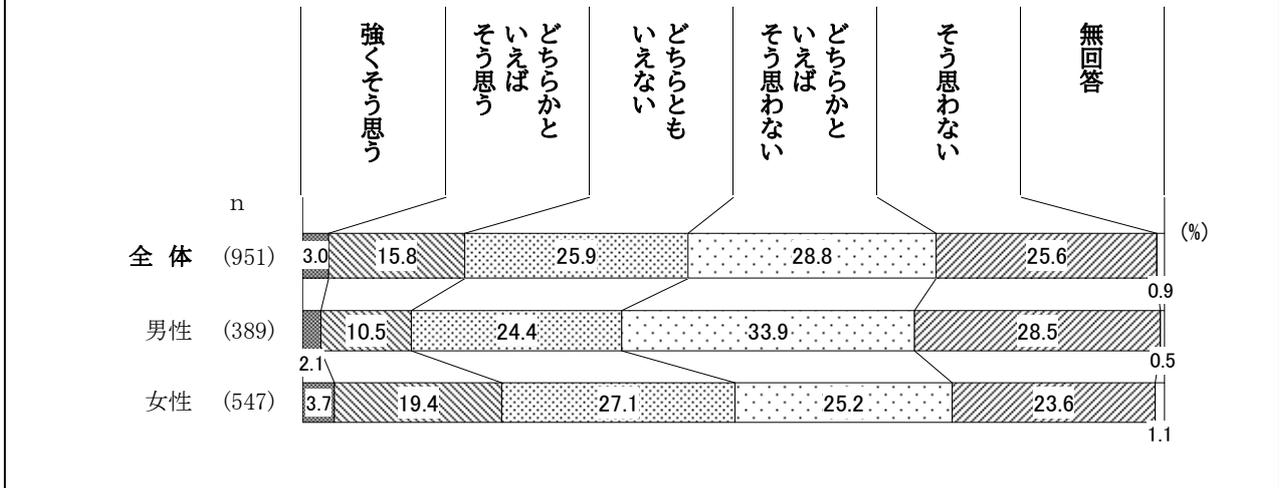
男性では《充実して暮らせている》が30歳代で7割台半ばと最も高く、《充実して暮らせていない》は40歳代が1割台半ばとなっている。女性では、《充実して暮らせている》は20歳代で約9割と高く、30歳代、50歳代、70歳代でも約8割となっている。《充実して暮らせていない》は80歳以上で2割を超えている。(図表Ⅲ-1-35)

(19) 地域の人々とのつながり度

◇ 《そう思う》は約2割、一方、《そう思わない》は5割台半ば

問14 あなたは、お住まいの地域の人々とのつながりは強いと思いますか。(○は1つだけ)

<図表Ⅲ-1-36> 地域の人々とのつながり度



住まいの地域の人々とのつながりを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」(15.8%)は1割台半ばで、「強くそう思う」(3.0%)を合わせた、《そう思う》(18.8%)は約2割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(28.8%)が約3割、「そう思わない」(25.6%)が2割台半ばで、それらを合わせた《そう思わない》(54.4%)は5割台半ばとなっている。「どちらともいえない」(25.9%)は2割台半ばとなっている。

性別で見ると、《そう思う》は女性が男性よりも10ポイント高く、2割台半ばとなっている。《そう思わない》は男性が女性よりも13ポイント高く、6割を超えている。(図表Ⅲ-1-36)